

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第162集

# 大岡元長窪線関連遺跡Ⅱ

平成16年度(主)大岡元長窪線第二東名アクセス道路  
整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中峯遺跡  
桜畑上遺跡

2005

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第162集

# 大岡元長窪線関連遺跡Ⅱ

平成16年度(主)大岡元長窪線第二東名アクセス道路  
整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中峯遺跡  
桜畑上遺跡

2005

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

## 序

大岡元長程線に関連する遺跡群は、昭和40年代に「上長程遺跡群」として調査が行われた地域にある。その当時は静かな畑作地帯で、今日のような大規模な開発が行われ、大きく地域が変貌をとげることを誰が想像したであろうか。

旧石器時代から縄文時代早期にかけて遺跡が集中する愛鷹山は、近年の開発によって発掘調査が進められ、旧石器時代、縄文時代を中心に多くの成果があげられている。前回の調査では、第二東名高速道路長泉インターへのアクセス道路整備工事の一環として、静岡県沼津土木事務所の委託を受けて平成11年度より13年度にわたって第一次調査が行われた。今回の本調査は、空白部分を補う第二次調査である。

調査対象地周辺は、戦前から多くの遺跡の存在が確認されており、これまでも部分的に調査が行われて来た。その成果から、尾根上のほぼ全域にわたって、旧石器時代から縄文時代の遺跡が分布するであろうことが推定されている。

以前の調査で、縄文時代早期末から前期初頭の土器が出土していた中峯遺跡においては、今回出土した土器や石器を今後の研究に活かすべき資料であると思う。遺跡の範囲については不明瞭な部分が残っているが、今後、第二東名や東駿河湾環状道関連の調査成果の報告によって、この地域の時代ごとの状況が解明されるであろう。

最後になったが、大岡元長程線関連遺跡の現地調査ならびに本書作成にあたって、静岡県沼津土木事務所をはじめ、多くの関係機関の援助、協力を得たことについて、厚く御礼申し上げる。また、この場をお借りして、広大な現地の調査、資料整理にあたった調査員、そして作業員の皆様方の労をねぎらいたい。

平成17年3月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所  
所 長 齋 藤 忠

## 例 言

- 1 本書は静岡県駿東郡長泉町上長窪～元長窪に存在する、中峯遺跡、桜畑上遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 現地調査は「平成16年度（主）大岡元長窪第二東名アクセス道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務」として、静岡県沼津土木事務所からの委託を受け、静岡県教育委員会文化課指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った。本調査を平成16年7月より12月まで実施した。
- 3 資料整理は平成17年1月より3月まで財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った。
- 4 調査の体制は次のとおりである。

平成16年度（本調査）

所長 斎藤 忠 副所長 飯田美夫 常務理事 平松公夫

総務部次長兼総務課長 鎌田英巳 会計係長 野島尚紀

調査研究部長 山本昇平 調査研究部次長 栗野克己 同次長兼二課長 佐野五十三

調査研究員 原田利志美（本調査・資料整理） 成田修一（本調査）

- 5 本書の執筆は静岡県埋蔵文化財調査研究所職員が行った。執筆分担は次のとおりである。

第Ⅰ章～第Ⅲ章 原田利志美 第Ⅳ章 下島健弘（技術作業員）

第Ⅴ章 下島健弘 原田利志美

- 6 石器の実測については㈱シン技術コンサルに実測図・トレースを委託した。
- 7 本書掲載の遺物写真は当研究所本部写真室において担当者が撮影した。
- 8 本書の編集は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所職員が行った。
- 9 調査に関するすべての記録は、静岡県教育委員会文化課が保管する。

## 凡 例

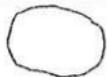
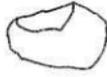
本書の記述・図示については、以下の基準に従っている。

- 1 実測図の縮尺は遺構分布が1/200～1/500、遺構引出図が1/20～1/40、遺物は1/1～1/4を基本として作成した。これ以外の縮尺も遺物の大きさにより適宜使用し、スケールを図中に示した。
- 2 使用した測地系は世界測地系（改正後）である。方位は、全て方眼北であり、方位が記入されていない挿図については、本文の中に特に記述がない限り、図の上方が北（方眼北）である。
- 3 土層、遺物（土器）の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に基づいている。
- 4 本書における遺構表記（略語）は次のとおりである。  
SF 土坑 SX その他の遺構
- 5 石器の石材分類は㈱石器石材研究所の柴田徹氏と山本薫氏による石材標準資料を用いて、当研究所技術員森嶋富士夫が実施した。
- 6 礫の観察にあたり、受熱・赤熱の状況を次のページの表を用いた（山下秀樹編 1985『広野北遺跡発掘調査報告書』豊田町教育委員会に準ずる）。礫一覧表には略号で赤化の状況を記入した。
- 7 本報告書は土層名を一部略称で表記している。正式な土層名は第4図に示した。

石材略号一覧表

和 名	略 語	和 名	略 語
石 英 閃 緑 岩	QD	チャート(灰色)	Ch(Gy)
ガラス質黒色安山岩	GAn	結 晶 片 岩	Sch
玄 武 岩	Ba	角 閃 石 片 岩	AmS
多 孔 質 玄 武 岩	VBa	緑 色 片 岩	GS
安 山 岩(斑 晶)	An(Py)	凝 灰 岩	Tu
細 粒 安 山 岩	FAn	粘 板 岩	SI
輝 石 安 山 岩	PAn	珪 質 粘 板 岩	SSI
多 孔 質 安 山 岩	VAn	頁 岩	Sh
軽 石	Pm	珪 質 頁 岩(黒 色)	SSh(B1)
黒 曜 石	Ob	珪 質 頁 岩(灰 色)	SSh(Gy)
流 紋 岩	Rhy	珪 質 頁 岩(暗 灰 色)	SSh(DG)
ヘ キ 玉(赤褐色)	RJa	砂 岩(細 粒)	FSS
ホルンフェルス	Hor	砂 岩(中 粒)	MSS
メ ノ ウ	Ag	砂 岩(粗 粒)	CSS
玉 髓	Cha	滑 石	Ta
水 晶	Rc	細 粒 斑 レ イ 岩	FG
石 英	Qt	デ イ サ イ ト	Da
石 英 岩	Si		

礫の受熱・赤化状況分類図

略号	模式図	名 称	特 徴
A		非赤化完形礫	完形で、受熱していない礫。
B		非赤化破損礫	完形ではなく、受熱していない礫。
C		赤化完形礫	完形で全面もしくは部分的に受熱している礫。
D		全面赤化破損礫	完形ではなく、割れ口も赤化している礫。
E		割れ面非赤化礫	表面は赤化しているが、割れ口は赤化していない礫。

# 目次

序	
例言	
凡例	
第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第Ⅲ章 調査の方法と経過	4
第1節 調査の方法	4
第2節 調査の経過	5
第3節 基本土層	5
第Ⅳ章 各区の調査成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 中基遺跡	11
1 5-9区	11
2 2-4区	18
3 3-7区	20
4 3-6区	23
第3節 桜畑上遺跡	24
1 1-5区	24
第Ⅴ章 まとめ	26

# 挿図目次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 愛鷹山東南麓遺跡分布図	3
第3図 年度別調査区配置図	6
第4図 基本土層図	8
第5図 土器分布図	9
第6図 石器分布図	10
第7図 5-9区グリット・テストピット配置図	12
第8図 5-9区テストピット土層図	12
第9図 5-9区BB0層上面地形測図	12
第10図 5-9区出土縄文土器	13
第11図 5-9区出土石器(縄文)	15
第12図 5-9区石器ブロック分布図	16
第13図 5-9区出土石器(旧石器)	17
第14図 2-4区グリット・テストピット配置図	18
第15図 2-4区テストピット土層図	18

第16図	2-4区出土石器(縄文) .....	19
第17図	2-4区出土石器(旧石器) .....	20
第18図	3-7区グリット・テストピット配置図 .....	21
第19図	3-7区テストピット土層図 .....	21
第20図	3-7区土坑実測図 .....	21
第21図	3-7区出土縄文土器 .....	22
第22図	3-7区出土石器(縄文) .....	23
第23図	3-6区グリット・テストピット配置図 .....	23
第24図	3-6区テストピット土層図 .....	23
第25図	1-5区グリット・テストピット配置図 .....	24
第26図	1-5区テストピット土層図 .....	24
第27図	1-5区出土石器(旧石器) .....	25

## 挿表目次

表1	遺跡地名表 .....	3
表2	現地調査工程表 .....	6
表3	基本土層表 .....	7
表4	5-9区土器観察表 .....	14
表5	3-7区土器観察表 .....	22
表6	石器観察表(縄文) .....	27
表7	石器観察表(旧石器) .....	27
表8	礫計測表 .....	27

## 図版目次

図版1	1. 遠景(香黄山より遺跡を望む)	2. 作業風景
図版2	1. 5-9区完掘状況(西より)	2. 5-9区テストピット2北壁土層断面
図版3	1. 5-9区FB層調査遺物出土状況(北東より)	2. 5-9区YL層遺物出土状況(北東より)
図版4	1. 2-4区完掘状況(北より)	2. 2-4区テストピット10北壁土層断面
図版5	1. 3-7区完掘状況(南より)	2. 3-7区テストピット23北壁土層断面
図版6	1. 3-7区FB層遺物出土状況(西より)	2. 3-7区土坑完掘状況
図版7	1. 3-6区完掘状況(北より)	2. 3-6区テストピット19東壁土層断面
図版8	1. 1-5区完掘状況(南より)	2. 1-5区テストピット15北壁土層断面
図版9	1. 5-9区出土縄文土器	2. 3-7区出土縄文土器
図版10	1. 縄文時代石器	2. 縄文時代石器
	3. 縄文時代礫石器	
図版11	1. 旧石器時代の石器(裏)	2. 旧石器時代の石器(裏)

## 第I章 調査に至る経緯

愛鷹山麓では東駿河湾環状道路の建設、第二東名高速道路の建設計画に伴い、静岡県沼津土木事務所により第二東名高速道路のインターチェンジ周辺の整備が計画された。この一環として、主要地方道大岡元長篠線の新路線の建設と、第二東名高速道路インターチェンジへのアクセス道路の整備が行われることになった。

本調査は、前回行われた調査の二次調査であり、平成16年6月に静岡県沼津土木事務所と協議を行い、静岡県教育委員会文化課の指導のもと財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査機関として発掘調査を実施した。



第1図 遺跡位置図

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

岐阜郡長泉町は静岡県東部地域の経済的中心部である沼津市と三島市の中間にあり、南東部にある黄瀬川扇状地を中心とした平野は各種の産業の発達した市街地となっている。特に南部は富士山からの湧水が多く、これを利用した工業が盛んである。これに対して北西部は愛鷹山の山麓となり、豊富な自然を利用した畑作・牧畜の盛んな地域となっている。特に、東名沼津ICの供用開始や国道246号バイパスの開通などにより交通が増加するなかで、周辺工業団地などの進出が地域産業の発達を促している。

大岡元長窪線は沼津市街地より長泉町の愛鷹山山麓を結ぶ道路であり、本書で扱う遺跡は愛鷹山東南麓に位置し、標高は100mから135mの間である。長泉町の長窪地区を流れる桃沢川より西、沼津市の鳥谷から東にあたる地域は、愛鷹山山体の崩落の際に形成された扇形に広がる土砂の上に、富士山からの火山灰が厚く堆積して、緩斜面を形成している。

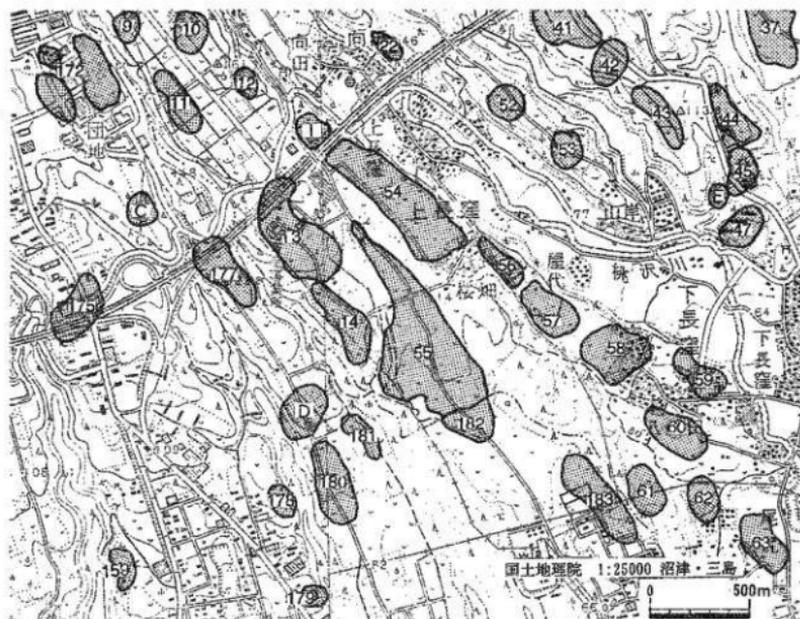
本書で扱う遺跡群はこの緩斜面の東端にあたり、北西から南東に向かって緩やかに低くなる尾根上にある。両側が深い谷に挟まれた尾根は、間にいくつもの浅い谷や低い尾根といった小地形を形成している。

### 第2節 歴史的環境

愛鷹山麓では約3万年前の旧石器時代から人間が生活していた痕跡が確認されている。富士山に近いこの地域では富士山の噴火の盛んな時期には火山灰が厚く覆い、休止期にはこれが植物などによって廃食し土壌化する。そのため、当地における旧石器時代の土層の特徴としては、間に火山灰を挟む黒色の文化層が何層にもわたることがあげられる。

縄文時代の遺跡は多くの尾根に存在し、多くの研究者の丹念な踏査、調査により、古くからその存在を知られている遺跡も多い。当遺跡付近をみると、第2図に示すように尾根上全域に遺跡が分布している。同じ尾根の上部に旧石器時代から縄文時代中期にかけての中尾・イラウネ・野台遺跡、下部に縄文中期初頭の柏窪・柏窪A・柏窪B遺跡、中期後半の八反田後遺跡が隣接する。浅い谷を挟んで西側の尾根には旧石器時代から縄文時代前期の清水柳北遺跡、縄文中期から後期の丸尾遺跡、縄文中期の丸尾第Ⅲ遺跡がある。

時期区別別に概観してみると、草創期の土器が出土する遺跡例は少ないが、石器類に関しては愛鷹山麓全域での出土例がみられる。この地域には、早期の土器を出土する遺跡が多く分布している。前期前半には清水柳北遺跡などの住居跡から多量の土器が出土し、さらに、前期後半の諸磯式の土器なども各地で出土しているが、概して遺跡数が減少する傾向があるようである。中期になると再び遺跡数は増加し、拠点となる集落が約5km前後に離れて存在し、周辺に小規模な集落が形成される様相が指摘されている(瀬川1986)。当遺跡群周辺では中期前半の集落として北東に2km離れた上山地遺跡、中期後半では当遺跡群の中峯遺跡から多くの住居跡が検出されている。後期になると遺跡数は減少し、土器についても散在的な出土傾向であり、まとまった資料はみられない。そして晩期の遺跡は愛鷹山麓ではほとんど確認されなくなる。以後、弥生後期頃までは遺跡が非常に少なく、愛鷹山においては空白の時期となっている。このように、時期により遺跡数に差があることも愛鷹山麓に分布する縄文時代遺跡の一つの特徴である。



第2図 愛鷹山東南麓遺跡分布図

表1 遺跡地名表

市町村	番号	遺跡名	市町村	番号	遺跡名	市町村	番号	遺跡名
長泉町	9	中尾	長泉町	52	山岸上B	沼津市	172	清水柳北
長泉町	10	イラウネ	長泉町	53	山岸A	沼津市	175	土手頭
長泉町	11	野台	長泉町	54	松畑上	沼津市	177	清水柳
長泉町	12	ハサマ	長泉町	55	柏壙A	沼津市	178	寺林
長泉町	13	中峯	長泉町	56	松畑下	沼津市	179	寺林南
長泉町	14	柏壙B	長泉町	57	八反田後	沼津市	180	丸尾
長泉町	22	向田B	長泉町	58	八反田	沼津市	181	丸尾第Ⅲ
長泉町	37	池田B	長泉町	59	西願寺	沼津市	182	柏壙
長泉町	41	中見代	長泉町	60	平畦	沼津市	183	柏葉尾
長泉町	42	木戸	長泉町	61	陣馬上B	沼津市	C	尾上第一
長泉町	43	茶木畑	長泉町	62	陣馬上A	沼津市	D	丸尾北
長泉町	44	上野E	長泉町	63	池田	長泉町	E	上野C
長泉町	45	上野A	沼津市	159	上松沢平	長泉町	I	西山
長泉町	47	上野B						

# 第三章 調査の方法と経過

## 第1節 調査の方法

### 1 現地作業

前回の調査（望月2003）では調査地区が広大な面積であったため、主要な道路により1～5区に大きく区分けしており、さらに各区をいくつかに細分していた。今回も引き続き前回の調査の調査区名を踏襲した（第3図）。

表土除去等の掘削、排土の処理、埋戻しおよび整地に重機を用いた。遺物包含層・遺構の精査は主として人力で行った。

遺構・遺物の検出状況はトータルステーションによる実測と写真撮影により記録を行った。遺構実測図はトータルステーション以外に適宜縮尺1/20の手実測の図面を作成した。写真撮影は、6×7判（白黒）と35mm（カラー、カラースライド）を組み合わせて行い、全体写真等は適宜ローリングタワーを使用して高所から撮影を行った。

遺物の取り上げについては土器（P）、石器（S）、礫（R）に大別し、1点ずつ遺物番号を付して取り上げた。トータルステーションを用いて遺物の取り上げ、地形測量等を現地にて行い、シン技術コンサルの遺物管理システムを使用して図化処理・台帳管理を行った。

遺構図はトータルステーションで作成し、位置も計測した。土層図は手取りしたものをトータルステーションで計測したセクションポイントと合わせて図化をしている。トータルステーションを用いて実測した遺構図・土層図などは、パーソナルコンピュータで出力したものを図面に貼付または転記している。

測量については世界測地系（測地成果2000）を使用し、国土平面直角座標系XⅢ系の $X = -94460.000$ 、 $Y = +33860.000$ を（A、1）とし、1～31まで、南から北へ向かってA～Yと記号をつけた。各地区が細分されているため、地区名で出土位置を示した。第6図にXY座標の位置を示している。

### 2 基礎整理

現地調査と並行して、基礎整理作業を現地で行った。

計測データについては、毎日の作業終了後にデータを打ち出し図化の確認を行った。取り上げた遺物のデータも打ち出して遺物台帳とした。必要に応じて全体図等の編集を行った。

遺物は洗浄・注記を行い、地区別・種別にコンテナに仮収納した。注記は遺跡名・遺物番号の順に記入した。遺跡名の略語を用い、桜畑上遺跡がSSBA、中塚遺跡がSNMEである。

桜畑上遺跡は3事業（日本道路公団・国土交通省・沼津土木事務所）の分割調査であったため、本事業の調査出土遺物についてはSSBAと注記を行った。

縄文時代の礫については、大きさ・重量等を計測し、被熱の有無を観察して礫台帳に登録した。重量の計測は5kgまでは最小目盛10gの標準秤、5kgを超える物については最小目盛500gの体重計を用いた。石器でホルンフェルスなどの風化が著しいものについては、石材強化剤ワッカーOH100による強化処理を行った。写真の整理は雨天時などを中心に現地と並行して行った。

### 3 整理作業

縄文土器は分類をしたのち、接合、断面実測、拓本を行った。遺物の写真撮影をし、図版ごと、分類

ごとに集合写真とし撮影をした。図面の保管はシートファイルを用い、すべての図面に番号を付し、台帳を作成した。

旧石器時代の礫については被熱の状況についての観察を行った。

石器の実測・トレースは作業の効率化のため外部に委託した。石器の重量の計測は、1200gまで最小目盛0.1gの電子天秤で計測し、1200gを超えるものについては5kgまでは最小目盛10gの標準秤、12kgまでの物は最小目盛50gの小包秤、12kgを超える物については最小目盛500gの体重計で計測を行った。

遺物については、報告書編集と並行して、地区毎に分け、ポリコンテナに報告書掲載遺物から順に収納した。

## 第2節 調査の経過

現地調査の開始にあたって、まず現地事務所と作業員休憩所用のプレハブを2棟設置した。調査区が広範囲にわたるため、現地の状況に合わせてテントを追加設置した。次に、対象範囲を確認し、丸太杭やトラロープなどを用いて調査区を設定した。

調査区の掘削は、表土除去を重機によって行い、縄文時代包含層と休場層までは人力により全面精査を行った。休場層以下の旧石器時代の調査はテストピットにより中部ルームまで人力で掘削を行った。テストピット掘削時に重要な遺構や遺物が出土した場合、拡張して調査を行った。

5-9区は7月中旬から10月中旬にかけて調査を行った。重機により、30cm程度表土を除去し、新期スコリア層から暗褐色土層まで人力により掘削した。その後、栗色層から休場層までの縄文、旧石器時代の遺物包含層を人力により精査を行った。最後に、テストピットを3カ所に設定し、中部ルームまで調査を行った。

2-4区は8月上旬から11月上旬にかけて調査を行った。重機により30cm程度表土の除去を行った。南側の調査区はかなり削平を受けていた。最後に、テストピットを4カ所に設定し、中部ルームまで調査を行った。北側は表土除去終了後、栗色層から休場層までの縄文、旧石器時代の遺物包含層を人力により精査を行った。最後に、テストピットを3カ所に設定し、中部ルームまで調査を行った。

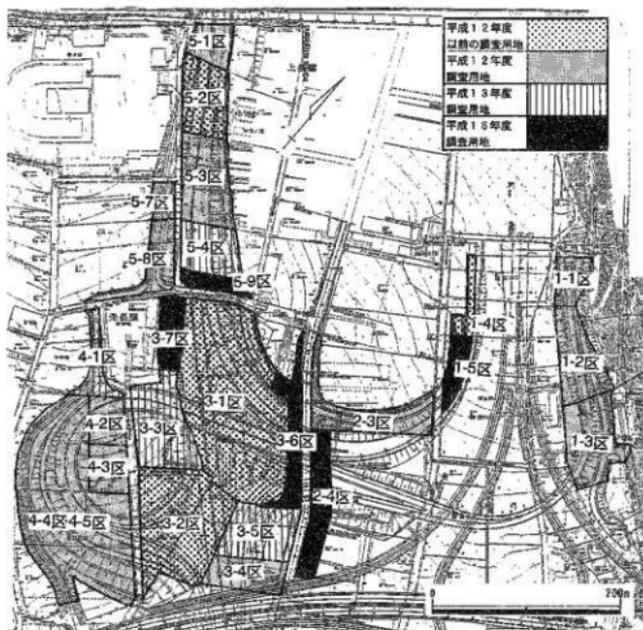
1-5区は10月中旬から11月上旬にかけて確認調査を行った。テストピットを3カ所に設定し中部ルームまで調査を行った。テストピット14とテストピット16（第25図）では第Ⅰ黒色帯より遺物が出土したため拡張したが、新たな遺構・遺物は見つからなかった。

3-6区は10月中旬から12月上旬にかけて確認調査を行った。テストピットを3カ所に設定し中部ルームまで調査を行った。

3-7区は11月上旬から12月中旬にかけて調査を行い、最初に、重機により、攪乱部分と40~50cm程度表土の除去を行った。表土除去終了後、新期スコリア層から暗褐色土層まで人力により掘削した。その後、栗色層から富士黒層までの縄文時代の遺物包含層を人力により精査した。縄文時代の遺物包含層からは、ほとんど遺構・遺物が見られなかったため、休場層を精査せずに、テストピットを4カ所に設定し、中部ルームまで調査を行った。

## 第3節 基本土層

愛鷹山は約70~80万年前に活動を開始し、10万年前頃には活動を終了した火山である。その後、北側の富士火山が噴火を開始し、周囲が厚い火山噴出物で覆われたため、愛鷹山東麓は愛鷹ルームと呼ばれる主として富士山起源の火山灰土が厚く堆積している。1967~1968年に愛鷹ルーム団研グループ（愛



第3図 年度別調査区配置図

表2 現地調査工程表

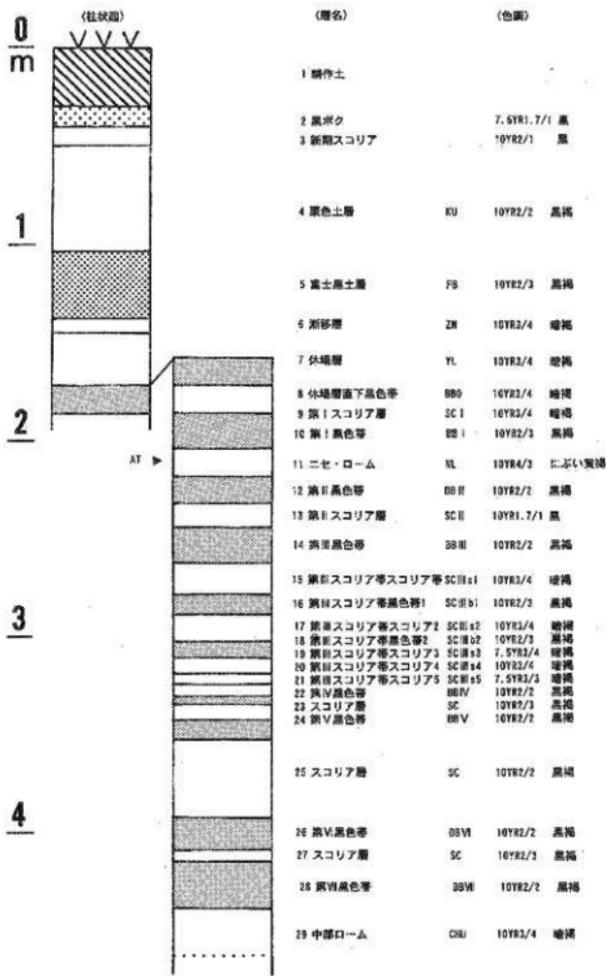
	平成12年度以前	平成12年度	平成13年度	平成16年度
1-1区		本調査 7月~10月		
1-2区		本調査 7月~11月		
1-3区		本調査 7月		
1-4区	確認調査			
1-5区				確認調査 10月~11月
2-3区		確認調査 12月~1月		
2-4区				本調査 8月~11月
3-1区	確認調査			
3-2区	確認調査			
3-3区		確認調査 9月~10月	本調査 8月~9月	
3-4区		本調査 3月		
3-5区			確認調査 9月~10月	
3-6区				確認調査 10月~12月
3-7区				本調査 11月~12月
4-1区			本調査 7月~10月	
4-2区		本調査 10月~11月		
4-3区		本調査 10月~12月		
4-4区		本調査 11月		
4-5区		本調査 11月~3月		
5-1区		本調査 11月~2月		
5-2区	確認調査			
5-3区		確認調査 1月~3月		
5-4区		確認調査 9月	本調査 6月~7月	
5-7区		確認調査 9月		
5-8区		本調査 9月~3月		
5-9区				本調査 7月~10月

属ローム(団研1969)の調査により上部ローム・中部ローム・下部ロームと大別されており、上部ローム層の下限は約3万年前で、黒色帯とスコリア層が互層になっており、それぞれ順にローマ数字が付されている。愛鷹山周辺の発掘調査の層名もこれに基づいて表記されている。当地区は昭和45年の農地構造改善事業により地形が改変されている影響から縄文時代の包含層などが削平されてはいるが、基本土層は愛鷹山の標準土層(表3)と一致する。調査対象とした3~28層の概要は次のとおりである。

第一層の3は新时期スコリア層で本遺跡では中世土坑が検出された。4は栗色土層で上部にカワゴ平バミスと考えられる白色のバミスを含む。5は富士黒土層で4とともに縄文時代の包含層と考えられ、縄文土器などの遺物が出土した。富士黒土層と7の休場層は漸移的に変化し、休場層からはナイフ形石器などの旧石器時代遺物が出土した。休場層は層内に2枚のスコリア層を含み上層、中層、下層と分層できるようであるが、当遺跡ではスコリア層が存在しない、もしくは不明瞭であったため分層できなかった。8から18は黒色帯とスコリア層の互層である。11はニセロームと呼ばれる層で始良丹沢広域火山灰(AT)を含んでいる。19、20、21はスコリア層が3層続くが、19は赤色、褐色、褐色などのスコリアを含むのに対し、20はイオウ色を呈し、非常に硬い。また21は主に赤色のスコリアで構成されている。以下22から中部ローム直上の28までは再び黒色帯とスコリア層の互層となる。BBIV直上のスコリア層とBBVII直上のスコリア層は明瞭であるが、その間のスコリア層は明瞭さに欠けるところもある。

表3 基本土層表

土層番号	層名	特 色
1	耕 作 土	畑の新作土が多い。地区によっては盛り土が深い箇所がある。褐色のスコリアを少量含む。
2	黒 色 土	中世の層と書われている。径1mm以下の褐色スコリアと白色バミスをわずかに含む。
3	新 期 ス コ リ ア 層	「マサ土」と呼ばれる固い層。径1~5mmの褐色スコリアを多量に含む。
4	栗 色 土 層	径3mm以下の赤色、褐色スコリアをごくわずかに含む。場所により不明瞭である。
5	富 士 黒 土 層	黒褐色土、包含物は含まない。場所により発色がやや悪い。
6	漸 移 層	径3~4mmの褐色スコリアをわずかに含む。
7	休 場 層	粘性があり径5~6mmの褐色スコリアをわずかに含む。
8	休 場 層 直 下 黒 色 帯	発色が悪く不明瞭で、ややハードローム化する。径3~8mmの褐色、褐色スコリアを含む。
9	第 I ス コ リ ア 層	径1~8mmの褐色、赤色、黄色、褐色、黒褐色スコリアが密集する。
10	第 II 黒 色 帯	発色が良好で、スコリアは比較的少ない。径1~5mmの褐色、褐色スコリアを少量含む。
11	ニ セ ロ ー ム 層	径4~6mmの赤色、黒色、黄色、褐色、褐色スコリア密集。ATをパッチ状に含む。
12	第 II 黒 色 帯	発色がやや悪い。径1~4mmの褐色スコリアを少量含む。
13	第 II ス コ リ ア 層	黒色土に径2~7mmの赤色、褐色、褐色のスコリアが多く含まれる。
14	第 III 黒 色 帯	発色が良好で、スコリアは少ない。径5~10mmの褐色、褐色スコリアをわずかに含む。
15	第 III ス コ リ ア 層 s 1	径4~6mmの赤色、褐色、褐色、こげ茶色スコリアが密集し、強くしまっている。
16	第 III ス コ リ ア 層 b 1	茶色は比較的良好である。径3~5mmの赤色、褐色、褐色スコリアを含む。
17	第 III ス コ リ ア 層 s 2	径3~5mmの赤色、褐色、褐色スコリアが密集する。黄白色のバミスを含む。
18	第 III ス コ リ ア 層 b 2	発色はやや悪い。径2~9mmのやや粒の大きい褐色、褐色スコリアを含む。岩片を含む。
19	第 III ス コ リ ア 層 s 3	径2~5mmの赤色、褐色、褐色スコリアが密集し、強くしまっている。岩片を含む。
20	第 III ス コ リ ア 層 s 4	上部がイオウ色、下部が鉄錆色で非常に固い。岩片を含む。
21	第 III ス コ リ ア 層 s 5	径5mm以下の赤色、褐色スコリアを大量に含む。
22	第 IV 黒 色 帯	発色が良好で、径1~3mmの褐色、褐色、赤色の細かいスコリアを多く含む。
23	ス コ リ ア 層	径2~7mmの褐色、褐色、こげ茶色が密集。大粒のこげ茶スコリアが目立つ。
24	第 V 黒 色 帯	発色はやや良好。径3~5mmの褐色、褐色、灰茶色スコリアを多く含む。
25	ス コ リ ア 層	径3~10mmの赤色、褐色スコリアを多く含む。やや大粒のスコリアが目立つ。
26	第 VI 黒 色 帯	発色はやや良好。径3~8mmの褐色、赤色、灰色、褐色スコリアを含む。
27	ス コ リ ア 層	径3~5mmの褐色、赤色、褐色、灰色、灰茶色スコリアを多く含む。
28	第 VII 黒 色 帯	発色が良好でスコリアは少ない。径2~10mmの褐色、褐色、褐色、灰茶色スコリアを含む。
29	中 部 ロ ー ム 上 面	明るいい調で、径1~5mmの赤色、黒色スコリアを多く含む。



第4図 基本土層図

## 第IV章 各区の調査成果

### 第1節 調査の概要

今回の大岡元長塚関連遺跡の調査は本調査として中峯遺跡5-9区、2-4区、3-7区を調査し、中峯遺跡3-6区、桜畑上遺跡1-5区を確認調査対応とした。全体的な概要を記述した後に関別別に詳細な調査成果を記載することにする。縄文時代の包含層中から出土した土器と石器については、平面分布図を作成した(第5・6図上段)。旧石器時代については、出土した石器の平面分布図を作成した(第6図下段)。

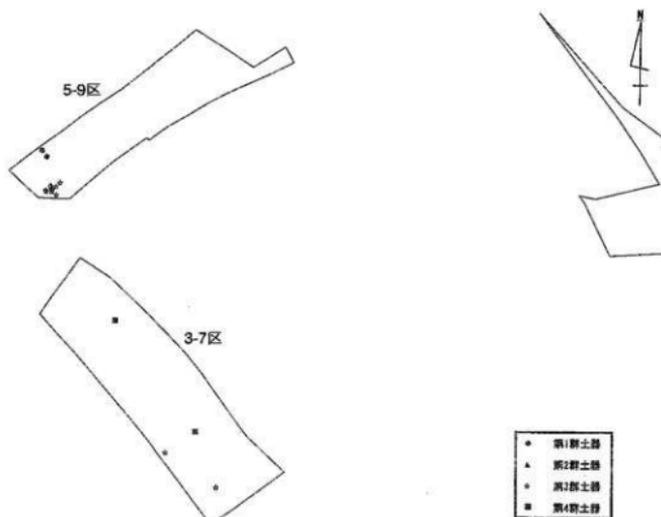
次に各区の調査成果を述べるが、土器と石器については、次のような全体的傾向が指摘される。

#### 縄文時代

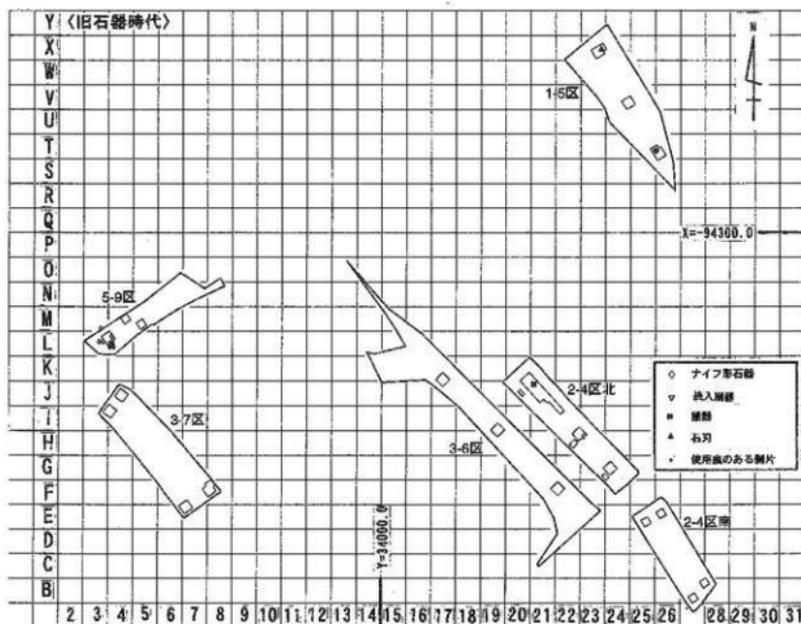
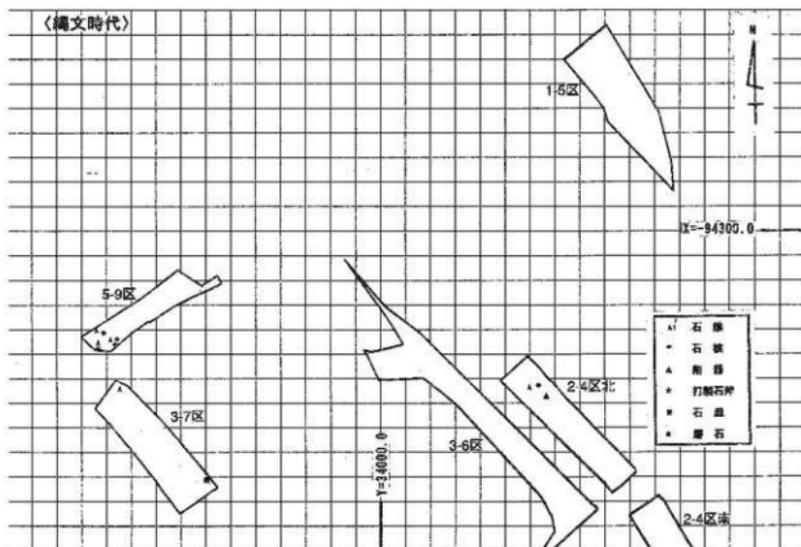
##### 土器

土器については、出土した総点数は48点と少ないものの早期の燃糸文土器から後期と思われる土器までと時間幅は広い。これら土器群を時期、型式によって4グループに分類をおこなった。以下に分類内容を示し、この内容をもとに区ごとの記述もおこなうこととする。

- 第1群 早期 燃糸文系土器群
- 第2群 前期 木鳥式
- 第3群 中期 加曾利E式
- 第4群 後期 型式不明



第5図 土器分布図



第6図 石器分布図

次に縄文土器の時期、型式別の分布を概観する（第5図）。

第1群の早期樫糸文土器は3点と少ないが5—9区の北西部に集中している。第2群の木鳥式は1点のみの出土で、第3群の加曾利E式がまとまって出土している5—9区の南西部の落ち込み部分に集中している。第3群の加曾利E式は第4群の後期の土器2点とともに3—7区からも2点出土しているが、3—7区には土器のまともりはみられない。

## 石器

出土石器は、合計12点であり、その内訳は、石鏃5点、石皿1点、磨石3点、打製石斧1点、削器1点、石核1点である。12点の石器全てを図示した。なお、第6図に石器、礫、剥片の出土位置を集成してみた。

石器は石鏃と磨石について細分類を実施した。以下、その概略を記述する。

石鏃は形態的に下記の基準で細分類した。

- 1類 平基式石鏃
- 2類 凹基式石鏃
- 3類 凸基式石鏃

さらに側縁部の形状により4種に細分した。

- 1種 側縁の形状が直線的なもの
- 2種 側縁の形状が外湾をするもの
- 3種 側縁の形状が内湾をするもの
- 4種 側縁に段をもち五角形状を呈するもの、及び側縁が脚部幅より張り出すもの

石鏃は2類1種が2点（第16図16、第22図21）、2類3種が2点（第11図1・2）、欠損1点（第11図3）に細分可能である。

## 旧石器時代の概要

旧石器時代の遺構は休場層を中心とする石器ブロック（以下ブロック）2箇所を検出した。遺物は休場層を中心とするブロックを構成する6点以外に単独出土の石器類6点があり、総計12点の石器類（以下石器群）が出土した（第6図）。本石器群は、旧石器時代の示準的な石器が縄文時代の包含層に混在することや礫群や単独礫を伴っていないので、出土層位による文化層の設定と生活面の復元を割愛した。

## 第2節 中峯遺跡

### 1 5—9区

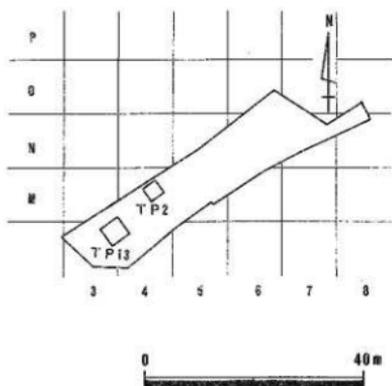
#### 5—9区

調査区内で看取できた地形としては、北東から南西に緩やかに下る地形である（第9図）。表土を30cmほど除去したところ、調査区東側2/3程度で中部ロームが検出されたため、本来は西に傾斜する丘陵状地形が削平され、谷部を埋めて平坦地に造成されたものと想定することができる。

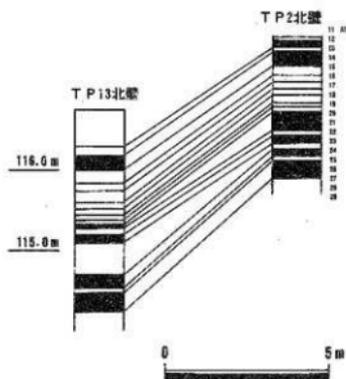
## 縄文時代

新期スコリア層以下の包含層が残っていた。調査区西側にトレンチ1を入れて層位を確認後、縄文時代包含層と思われるKU層まで人力により掘削した。

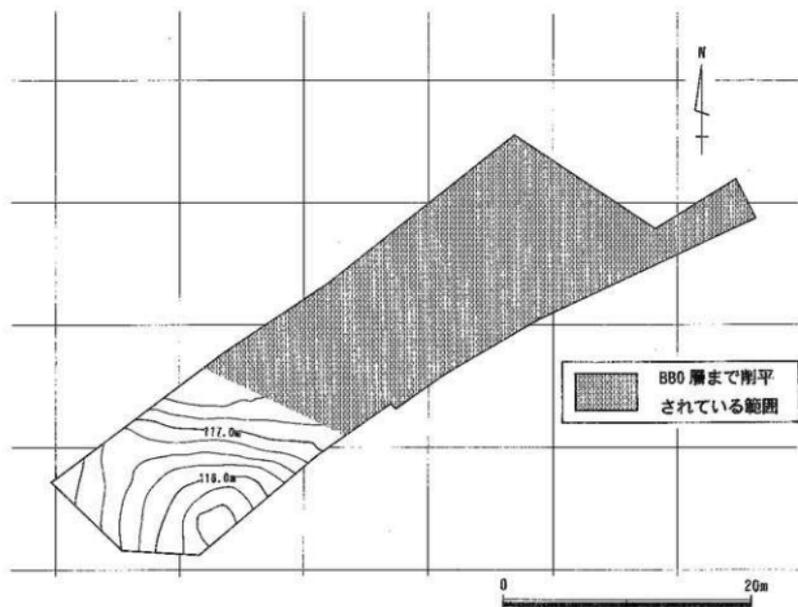
KU層・FB層を精査したところ西南の落ち込んだ部分で土器20点、石器42点が出土した。土器は第1群、



第7図 5-9区グリッド・テストピット配置図



第8図 5-9区テストピット土層図



第9図 5-9区BB0層上面地形測図

第2群、第3群が出土しており、その平面分布は北西に第1群土器が、南西の落ち込み部分に第2群、第3群が集中している。

## 土器

### 第1群 早期 撚糸文 (第10図 1~3)

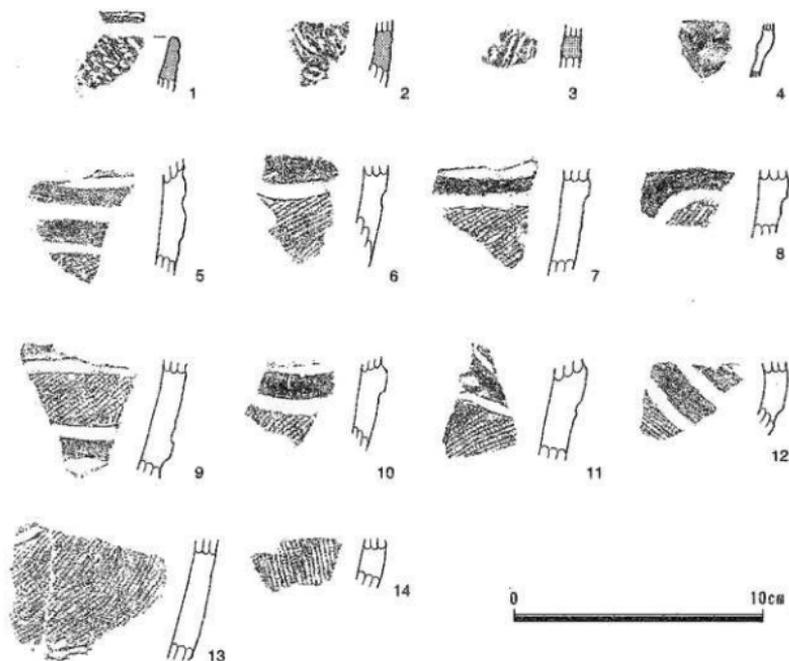
撚糸文土器の破片が口縁部破片を含み3点出土している。1には太さ2mm程度の明瞭なLRの撚り紐の痕跡が残る。胎土に繊維含み、焼成もよい。2・3は撚糸文土器の胴部破片である。1と同様に胎土に繊維を含み、焼成もよいが撚り方向が明瞭でない。

### 第2群 前期 木島式 (第10図 4)

木島式は1点のみ出土している。器壁は薄く3mm程度、口縁部に近い破片で屈曲部を有する。屈曲部への刺突や刻みはみられないもの上下には明瞭な横位の指頭凹痕の列がみられる。

### 第3群 中期 加曾利E式 (第10図 5~14)

本遺跡からは最も多く出土している土器群である。口縁部破片はなく、胴部破片のみである。いずれにもぶい橙色を呈しており、胎土には繊維は含まず、石英、白色砂粒などを含む。施文には半截竹管状工具を用いて無文帯と縄文を区分けするように沈線を引いている。破片が小さいため全体のモチーフは不明である。縄文は細く、LRの縄文を施しているが7のみRLの縄文が施されている。14は縄文のみの施文であるが、胎土、色調、縄文などの特徴から同群に含めた。



第10図 5-9区出土縄文土器

表4 5-9区土器観察表

番号 尖頭図版 写真図版	遺物 番号	層位 遺構	年代 形式	器種 器形	残存部位 色調 内装色調	(1)文 様 (2)包含物	備 考
1 第10図 図版9	49	FB 包含層	惣糸文	深鉢	口縁部破片 7.5YR6/4にぶい橙	(1)Rの惣糸文を斜位に施す。 (2)φ1.0mm程度の白色砂粒を少量含む。φ0.5mm程度の石英を微量含む。雲母を微量含む。	焼成良好
2 第10図 図版9	38	FB 包含層	惣糸文	深鉢	5YR6/4にぶい橙	(1)摺りは不明瞭であるが惣糸文を斜位に施す。 (2)φ1.0mm程度の石英を微量含む。	焼成良好
3 第10図 図版9	79	FB 包含層	惣糸文	深鉢	5YR6/4にぶい橙	(1)摺りは不明瞭であるが惣糸文を縦位に施す。 (2)φ1.0mm程度の白色砂粒を微量含む。φ1.0mm程度の石英を微量含む。	焼成良好
4 第10図 図版9	34	KU 包含層	木鼻式	深鉢	10YR2/1黒	(1)無文だが、縦位に指環圧痕の列がみられる。 (2)φ0.5mm程度の白色砂粒を微量含む。φ1.0mm程度の石英を少量含む。	焼成良好
5 第10図 図版9	6	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/4にぶい橙	(1)縦位の沈線で区画された中をLRの縄文で充填する。 (2)φ1.0mm程度の白色砂粒を少量含む。φ1.0mm程度の石英を微量含む。	焼成良好
6 第10図 図版9	32	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/4にぶい橙	(1)縦位の沈線で区画された中をLRの縄文で充填する。 (2)φ1.0mm以下の白色砂粒を少量含む。φ1.0mm程度の石英を少量含む。雲母を微量含む。	焼成良好
7 第10図 図版9	8	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/4にぶい橙	(1)縦位の沈線で区画された中をRLの縄文で充填する。 (2)φ1.0mmの白色砂粒を少量含む。φ2.0mm程度の石英を微量含む。雲母を微量含む。	焼成良好
8 第10図 図版9	93	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/4にぶい橙	(1)円を描くような沈線で区画された中をLRの縄文で充填する。 (2)φ1.0mm程度の白色砂粒。φ3.0mm程度の石英を少量含む。雲母、輝石を少量含む。	焼成良好
9 第10図 図版9	10	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/3にぶい橙	(1)縦位の沈線で区画された中をLRの縄文で充填する。 (2)φ1.0mm程度の白色砂粒を少量含む。φ1.0mm程度の石英を微量含む。雲母を微量含む。	焼成良好
10 第10図 図版9	7	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/4にぶい橙	(1)縦位の沈線で区画された中をLRの縄文で充填する。 (2)φ1.0mm程度の白色砂粒を少量含む。φ0.5mm程度の石英を微量含む。	焼成良好
11 第10図 図版9	25	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/4にぶい橙	(1)縦位の沈線で区画された中をLRの縄文で充填する。 (2)0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。φ0.5mm程度の石英を微量含む。雲母を微量含む。	焼成良好
12 第10図 図版9	9	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/4にぶい橙	(1)斜位の沈線で区画された中をLRの縄文で充填する。 (2)φ2.0mm程度の白色砂粒を少量含む。φ0.5mm程度の石英を微量含む。雲母を微量含む。	焼成良好
13 第10図 図版9	20・ 26	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/4にぶい橙	(1)斜位の沈線で区画された中をLRの縄文で充填する。 (2)φ1.0mm程度の白色砂粒、石英を少量含む。雲母を微量含む。	焼成良好
14 第10図 図版9	17	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/3にぶい橙	(1)LRの縄文を施す。 (2)φ1.0mm程度の白色砂粒、石英を微量含む。	焼成良好

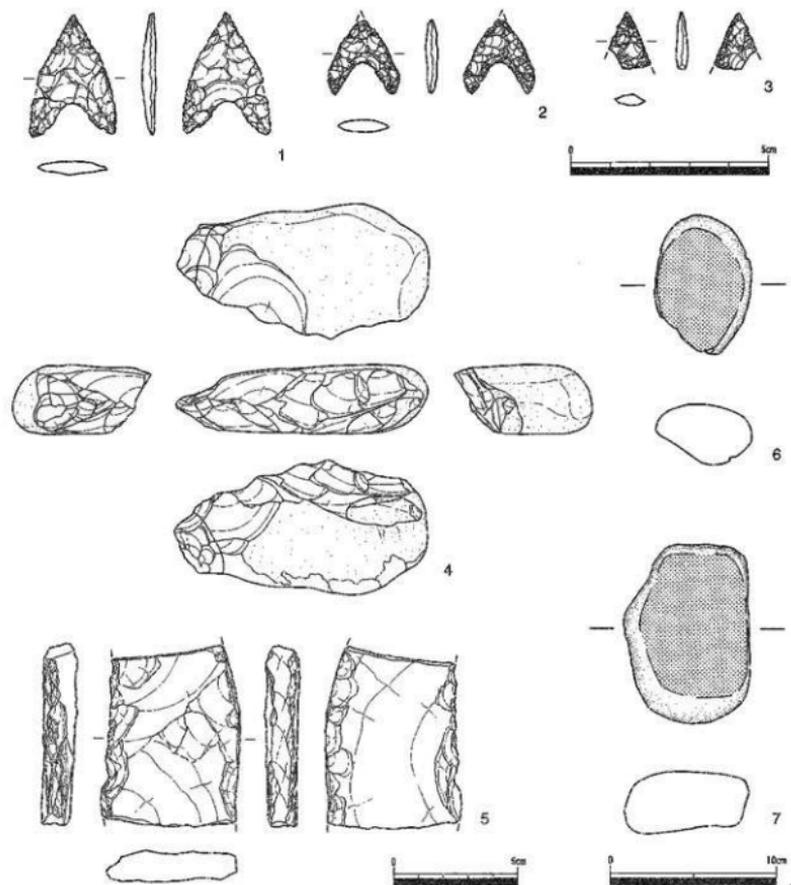
## 石器

5-9区の縄文時代の石器は今回の調査区の中で最も多くの出土を示す。出土内容は狩猟具石鏃3点、調理具磨石2点、打製石斧1点、石核1点の合計7点出土した。これらの石器類は調査区南西部のL-4グリッドで石器集中地点として確認された。その規模は長軸約8m、短軸約4mで、不定型な範囲に分布する。

石鏃1はガラス質黒色安山岩製でほぼ完形品。脚部を接合した。2・3は黒曜石製で、2は先端部がやや欠けるもののほぼ完形品で、3は頭部のみの欠損品である。

石核4はホルンフェルス製石核である。板状の歪円礫の自然面を打面とし、一部裏面側からの打面調整を行いながらやや幅広い剥片を作出している。剥離作業面は正面に限定される。

5は輝石安山岩製打製石斧の胴部破片である。表裏面に素材剥片の剥離面を残し、両側縁に入念な側縁調整が観察できる。磨石6は片面側からの大きな剥離により一部欠損する。磨石7は完形品で板状の歪円礫を素材とし一面に磨痕が残る。



第11図 5-9区出土石器(縄文)

#### 旧石器時代の遺構と遺物

5-9区ではL-4グリッド付近からナイフ形石器を主体とする石器群が出土した。これらは休場層からカワゴ平パミスを含む黒色土層にかけて出土し、緩やかな谷の斜面部に石器の集中が見られた。

#### 遺構

ブロックは2箇所検出した。検出された複数の石器はブロックから検出した6点、その他2点、合計8点である。ここでいう「その他」は、ブロック外出土の石器類をいう。石器群の内訳は、ナイフ形石器6点、挟入削器1点、使用痕のある剥片1点の合計8点である。これ以外の礫群や配石は検出していない。また、単独産の出土もなかった。これらは、南北約8m、東西約6mの範囲に分布している。

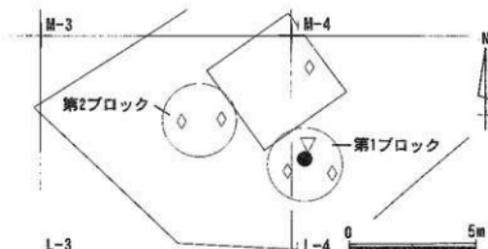
## 石器ブロック

### 第1ブロック

本ブロックは調査区南西側のL-4グリッドで確認され、調査区の西側に位置するブロックである。西には、約3mの距離を隔てて第2ブロックが検出されている。その規模は長軸約1.8m、短軸約1.5mで、不定型な範囲に分布する。休場層からカラゴ平含有層にかけて拡散的な分布を示した。確認された石器群は、ナイフ形石器2点、抉入削器1点、使用痕のある剥片1点の合計4点である。

### 第2ブロック

第2ブロックは調査区西側L-3グリッドに位置する。規模は、約1.8mの範囲に分布を呈していた。石器群の内訳は、ナイフ形石器2点であった。



第12図 5-9区石器ブロック分布図

## 石器

### ナイフ形石器

ナイフ形石器は6点出土している。

#### a 二側縁加工のナイフ形石器

8、9、10、11、12は欠損部があるものの、残存する部分から推定して二側縁加工のナイフ形石器に分類が可能と思われる。このうち、8、9、10、11は残存する長さから推定して3cm以上の大形、12は3cm未満の中形のナイフ形石器と推定される。石材は8、9、10、12が黒曜石製で、11がホルンフェルス製である。比較的整った縦長剥片を素材とし、8、9は肉厚の、10、11、12はやや薄手の縦長剥片を縦位に用い、側縁に裏面側からブランディングを施す。いずれも先端部を欠損する。

#### b 部分加工のナイフ形石器

13は部分加工のナイフ形石器で、長さ3cm未満の中形である。縦長剥片を横位に用い、裏面側から打面と打瘤を削除するようにブランディングを施す。黒曜石製。完成品。

### 抉入削器

1点出土している。14は縦長剥片を素材とし、側縁部に挟り込むような二次加工を施す。黒曜石製。完成品。

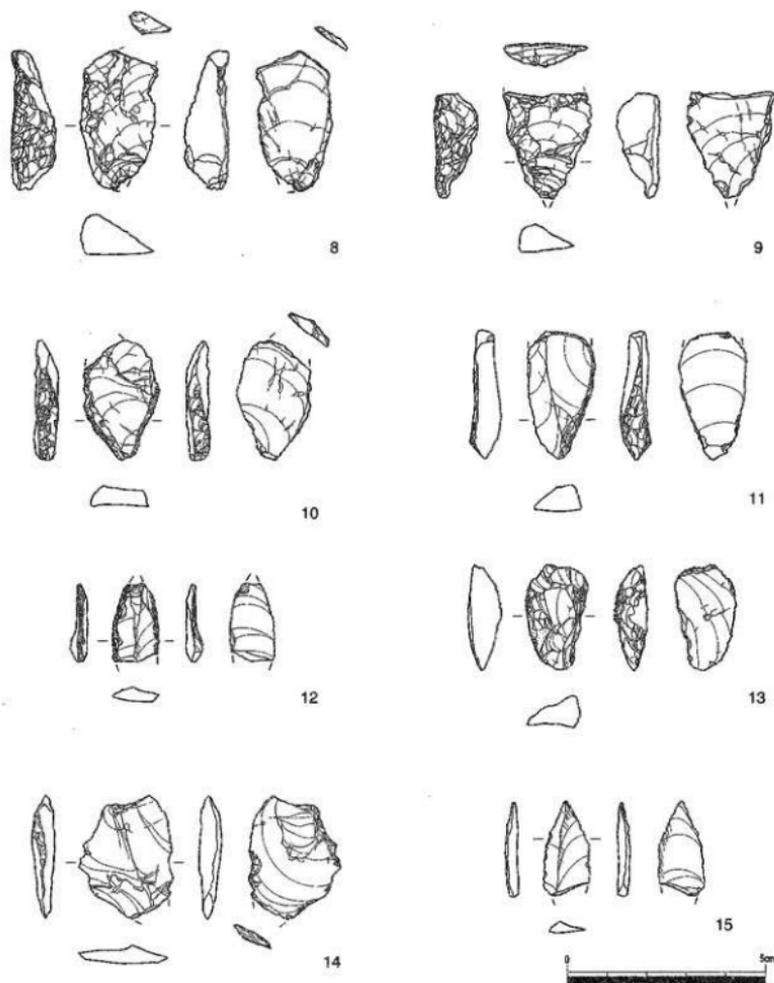
### 使用痕のある剥片

1点出土している。15は黒曜石製の石刃を素材とし、左側縁に使用痕が観察できる。

## 石器群の特徴

石材の構成は、黒曜石7点を主体としてホルンフェルス1点である。

剥片剥離技術は石器類の観察から推定すると、石刃技法を予測させるものとして、石刃素材のナイフ形石器11、13と縦長剥片素材のナイフ形石器8、9がある。これらは、整えられた石核から石刃技法あるいはそれに類する技術によって剥片剥離作業が行われたと考えられる。さらに、剥離面と主要剥離面の



第13図 5-9区出土石器(旧石器)

方向が一致する例から単設打面石核から石刃状の剥片を剥離したことが窺える。この他にも、やや幅広いの剥片には剥離面に2方向以上の剥離が観察され、求心的な石核の存在も予測される。本文化層ではこのような剥片剥離作業技術の存在が推定される。

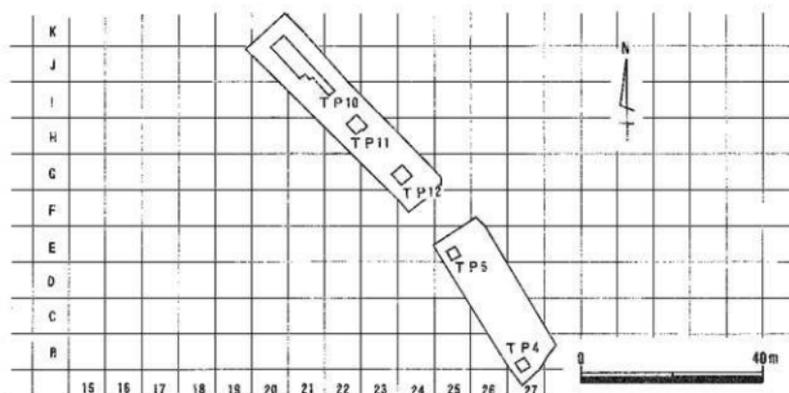
ナイフ形石器等の特徴は二側縁加工と部分加工のナイフ形石器にある。二側縁加工のナイフ形石器は比較的整った縦長剥片を素材とし急角度のプランティングに特徴がある。部分加工のナイフ形石器は右側縁にプランティングがある。

## 2 2-4区

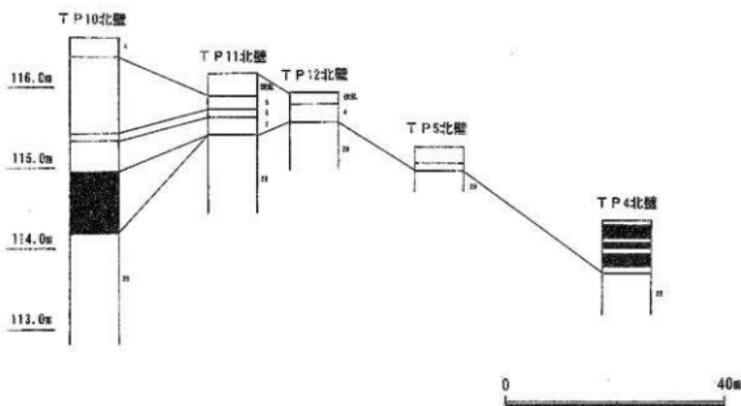
### 2-4区

調査区内で検出された地形は、北側調査区が西から東にかけて急斜面を持つ地形で、南側調査区はほぼ平坦である。調査区内の本来の地形は、現況とは、全く異なったものであり、耕地整地に伴って大きく変化している。

基本土層は第3図の通りである。調査区の西側は中部ローム層であり、東側では栗色土層がみられた。遺物は、いずれも斜面に混入したものである。調査区南側では、表土直下で中部ロームが露出し遺物包含層は消滅していた。



第14図 2-4区グリッド・テストピット配置図



第15図 2-4区テストピット土層図

## 遺物

2-4区では、土器は小破片が数点出土した。しかし、所属時期が明瞭に判断できる資料はみられなかった。

石器は石鏃1点、削器1点、磨石1点、ナイフ形石器1点、搔器1点が出土した。また、このうち、石鏃1点、削器1点、磨石1点を縄文時代の石器と判断した。

さらに、旧石器時代の示準的な石器であるナイフ形石器1点、搔器1点が出土しており、これらを旧石器時代の石器と判断して分類し時期ごとに記述を行うこととする。

## 縄文時代の遺物

## 石器

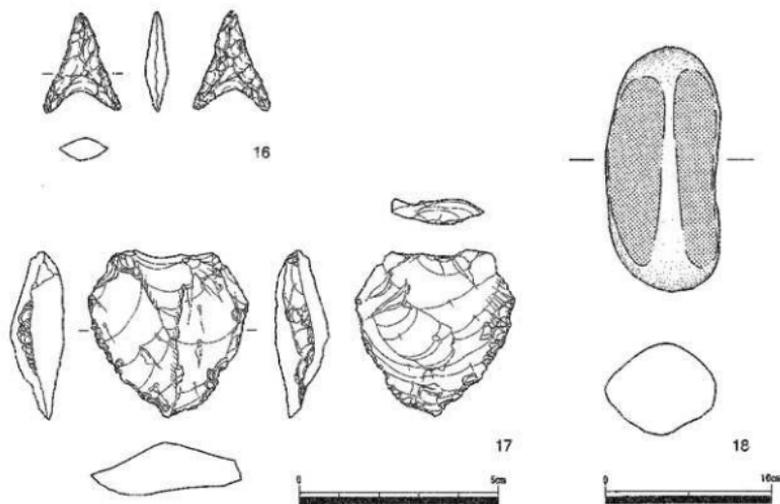
狩猟具石鏃1点、工具削器1点、調理具磨石1点の合計3点出土した。

これらの石器類は調査区北東部のJ-21グリッドで石器集地点としてややまとまって確認された。その規模は約4mの不定型な範囲に分布する。主に栗色土層からの出土であるが、西から東への急斜面上からの出土であり流れ込みの可能性が高い。

石鏃16はホルンフェルス製で完形、やや肉厚である。剥離はやや大きく、素材剥片の剥離面等は観察できない。

削器17は黒耀石製で、表裏面に素材の剥離面が残る。比較的幅の広い薄片の打痕を削除し細部加工を施して削器としている。

磨石18は完形品。断面が三角形を呈する縦長の亜円礫を素材とし、平坦面の2面に磨痕が残る。5-9区で出土した磨石2点よりも大ぶりである。



第16図 2-4区出土石器(縄文)

## 旧石器時代の遺物

### 石器

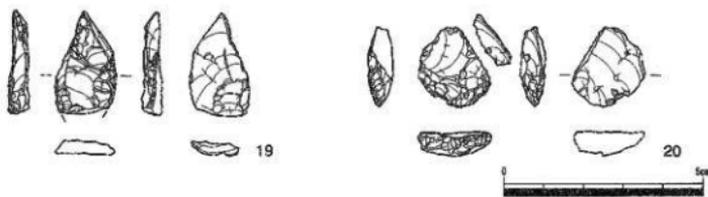
2-4区ではJ-21グリッドからナイフ形石器1点、搔器1点の合計2点が出土した。いずれも単独出土の石器であり、出土層位は休場層である。

ナイフ形石器の19は基部を欠損するが二側縁加工のナイフ形石器と判断が可能と思われる。残存する長さから推定して3cm以上のやや大型のナイフ形石器と推定される。石材が黒曜石製で、石刃技法に類する方法で剥離したやや薄手の縦長剥片を縦位に用い、両側縁に裏面側からブランディングを施している。

搔器20は1点出土している。石材は黒曜石で、求心的な石核から剥離されたと思われるやや幅が広い剥片を素材としている。主要剥離面側から急斜度の二次調整を施しており、基部を欠損する。19のナイフ形石器と文化層を同じくする可能性が高い。

剥片剥離作業技術は石器類の観察から推定すると石刃技法を予測させるものとして、縦長剥片素材のナイフ形石器19がある。これらは整えられた石核から石刃技法或いはそれに類する技術によって剥片剥離作業が行われたと考えられる。さらに、剥離面と主要剥離面の方向が一致することから単設打面石核から石刃状の剥片を剥離したことが窺える。

この他、搔器20のやや幅広いの剥片には剥離面に2方向以上の剥離が観察され、求心的な石核の存在も予測される。本文化層ではこのような剥片剥離作業技術の存在が推定される。



第17図 2-4区出土石器(旧石器)

## 3 3-7区

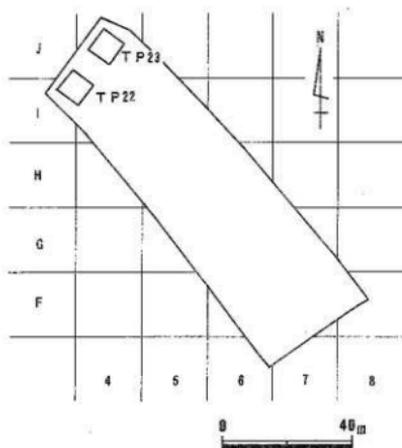
### 3-7区

調査区内で検出された地形は、南西から北東に向かって緩やかに下る地形である。他の区の遺物が流れ込みである可能性が高いのに対して本区は流れ込みではないと思われる。全体的な地形としては、5-9区の南西部分が3-1区(第3図)部分の谷頭になるようにつながっているものと考えられる。

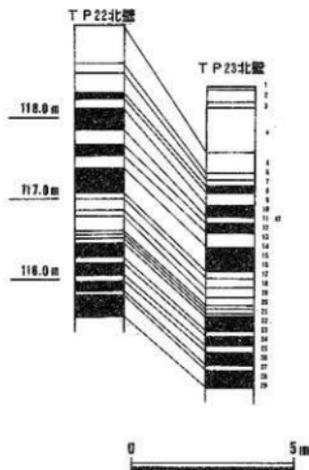
調査区は南北に長く、攪乱が調査区南西から中央部にかけて見られた。しかし、北東部は堆積が良く残り基本土層が欠けることなくしっかりと観察できた。

遺構は、所属時期は不明であるが、所謂中世土坑が検出された。縄文時代の遺構は検出されなかった。

遺物は土器が4点、石器が2点出土した。土器は第3群が2点、第4群土器が2点出土しており、5-9区ではみられなかった後期と思われるような土器も出土している。石器は石鎌が1点と石皿が1点出土している。



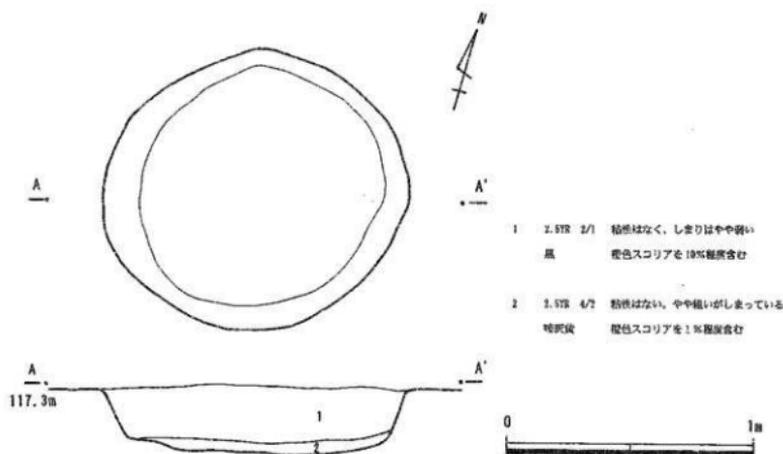
第18図 3-7区グリッド・テストピット配置図



第19図 3-7区テストピット土層図

時期不明の遺構

土坑を新期スコリア層から1基検出した。所謂中世土坑で長軸1.24m、短径1.14mで最大深28cmである。遺物は出土せず時期は不明である。



第20図 3-7区土坑実測図

土器

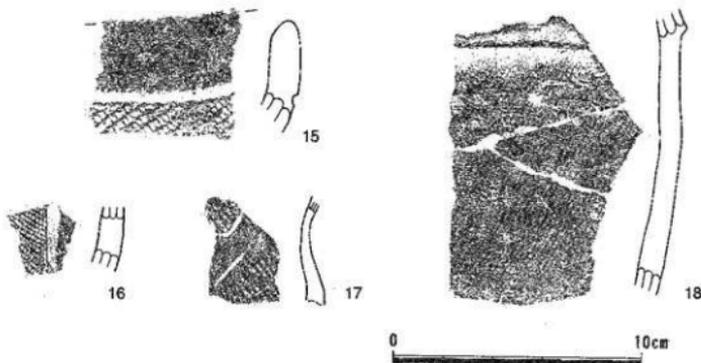
3-7区では第3群、第4群土器が出土している。図示できる土器は4点と少ないが、後期と思われるような土器も出土している。

第3群 中期 加曾利E式 (第20図 15・16)

5-9区と同様に加曾利E式の出土がみられる。15は口縁部破片で、施文は口縁部以下の無文帯から半截竹管状工具による沈線を含んで縄文が転がる。16は胴部破片でいずれも半截竹管状工具による沈線によって無文帯と縄文が区画されている文様構成をもつ。

第4群 後期 (第20図 17・18)

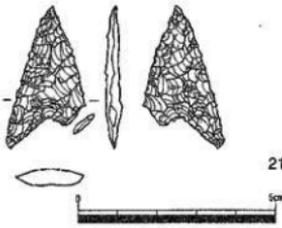
17は沈線で区画した内を縄文で充填しており、器形は屈曲をもつが全体像は不明である。18は12cmと出土土器内では最も大型の胴部破片である。破片上部に断面三角形の陸帯を横位に貼り付けている。両片とも型式は不明であるものの、焼成や器面調整などの要素から、縄文時代後期に属する土器と思われる。以前の調査(望月2003)では後期の土器としては称名寺式と堀之内式が出土しているが、文様要素、文様構成などから異なる土器群と推測される。



第20図 3-7区出土土器

表5 3-7区土器観察表

番号 実測図版 写真図版	遺物 番号	層位 遺構	年代 型式	器種 器形	残存部位 色 調 内面色調	(1)文 様 (2)含有物	備 考
15 第20図 図版9	217	KU 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/3にふい梅	(1)頸位の沈線で区画された中をLRの縄文で充填する。 (2)φ1.0mm程度の白色砂粒、石英を少量含む。雲母を微量含む。	焼成良好
16 第21図 図版9	205	FB 包含層	加曾利 E式	深鉢	7.5YR6/4にふい梅	(1)頸位の沈線で区画された中をLRの縄文で充填する。 (2)φ2.0mm程度の白色砂粒、石英を少量含む。	焼成良好
17 第21図 図版9	204	FB 包含層	後期	深鉢	5YR5/6明赤梅	(1)沈線で区画した中を縄文で充填している。 (2)0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。φ1.0mm程度の石英を微量含む。	焼成良好
18 第21図 図版9	179	KU 包含層	後期	深鉢	7.5YR6/4にふい梅	(1)断面三角形の陸帯を貼り付けている。 (2)0.5mm程度の白色砂粒を少量含む。φ0.5mm程度の石英を微量含む。雲母を微量含む。	焼成良好

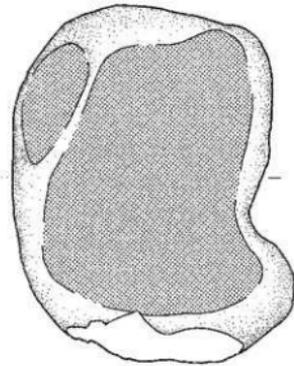


21

石器

狩猟石鏃1点、調理具磨石1点の合計2点出土した。これらの石器類は調査区北西部のF-7グリッドと南東部のJ-4グリッドで単独出土した。

狩猟石鏃21は黒曜石製で長身鏃に近い形状である。調理具石皿22は安山岩で、僅かな磨痕が観察できる程度で長期にわたり使用したものとは考えられない。

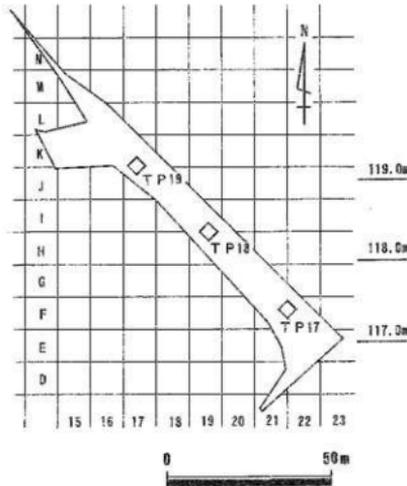


22

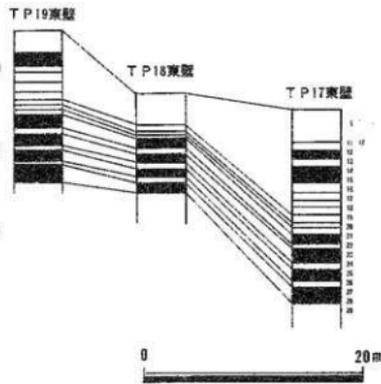
第22図 3-7区出土石器(縄文)

4 3-6区

調査区は2-4区の道路を挟んで反対側の、南北に長い調査区である。テストピットを3ヵ所設定して確認調査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



第23図 3-6区グリッド・テストピット配置図



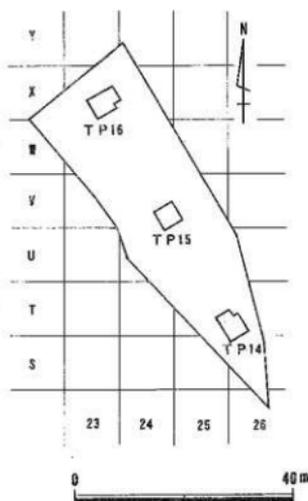
第24図 3-6区テストピット土層図

### 第3節 桜畑上遺跡

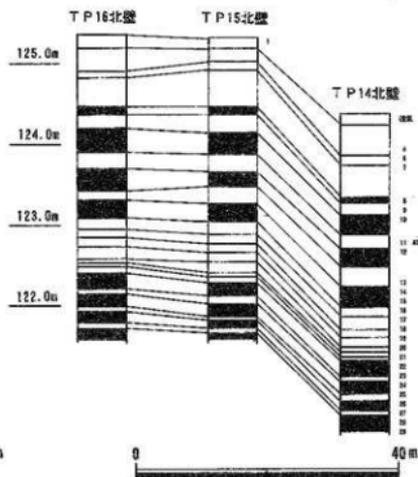
#### 1 1-5区

##### 1-5区

1-5区はテストピットを南北縦位3カ所に設定し確認調査を行い、中部ルームまで掘削した。遺構は検出できなかった。遺物はテストピット14から使用痕のある剥片が1点、テストピット16から石刃1点、いずれも第1黒色帯から出土した。遺物出土に伴いテストピットを、遺物出土地点を中心に3m拡張したが、遺構・遺物は検出されなかった。



第25図 1-5区グリッド・テストピット配置図



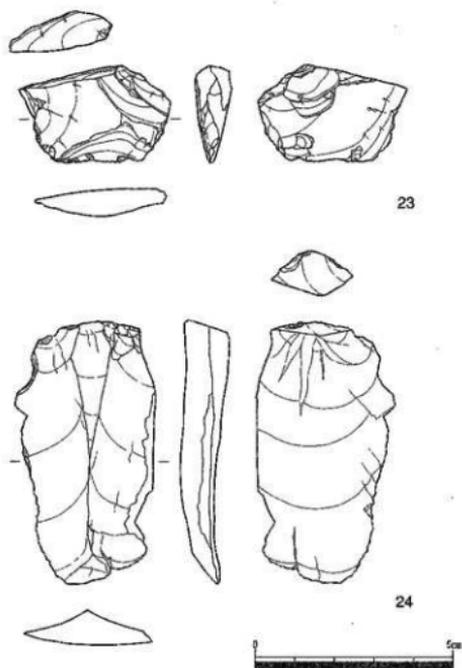
第26図 1-5区テストピット土層図

#### 旧石器時代の遺物

##### 石器

使用痕剥片23は黒曜石の横長剥片を縦位に用い、周辺部に使用痕と思われる微細な剥離痕が観察できる。石刃24はホルンフェルス製で周辺部に新規の欠損がみられる。

剥片剥離作業技術として石刃技法を予測させる石刃に24がある。これは整えられた石核から石刃技法或いはそれに類する技術によって剥片剥離作業が行われたと考えられる。さらに、剥離面と主要剥離面に対向方向からの剥離痕が観察できることから両設打面石核から石刃を剥離したことが窺える。この他、使用痕のある剥片の幅広い剥片には、剥離面に2方向以上の剥離が観察され、求心的な石核の存在も予測される。本文化層ではこの様な剥片剥離作業技術の存在が推定される。



第27图 1—5区出土石器(旧石器)

## 第V章 まとめ

### 縄文時代

5-9区、3-7区を中心に縄文時代の遺物が出土した。5-9区の南西、3-7区の北東に急激な落ち込みがあり3-1区にあたる場所に向かって谷部が形成されていたと考えられる。

土器は、5-9区の谷頭の頂部で早期の縄糸文が3点出土しており、落ち込み傾斜部の途中で中期の加曾利E式土器が10点集中して出土している。3-7区では後期と思われる土器が2点出土している。石器は石鏃が5点のみ出土し、石材は黒曜石、ホルンフェルス、ガラス質黒色安山岩である。その他、打製石斧1点、ホルンフェルス製の石核が1点、黒曜石製の削器が1点、石皿が1点、磨石が3点出土している。石器の帰属時期については、土器の様相から概ね中期に属すると思われるが、中期以外の土器もみられるため詳細な時期決定には検討を要する。

周辺には1967、69年に調査され、計29軒の住居跡が検出された中峯遺跡や1969年に調査され、勝坂式の単純遺跡である板垣上遺跡、1979年に緊急発掘され、中期の所謂柏壁式の標識遺跡である柏壁遺跡（小野他1971）など遺物、遺構が多く検出された遺跡が所在しており、豊富な遺物や遺構が出土している。今回の調査はこれら周辺遺跡の縁辺部であることが確認された。

### 旧石器時代

旧石器時代の調査では、休場層と第I黒色帯から石器類が出土した。前者は、休場層から出土し、黒曜石を主体的に用いる他、石刃や縦長剥片を素材とする大形或いは中形のナイフ形石器を含むことから「愛鷹・箱根山の旧石器時代編年」第4期の石器群と推測されるが、尖頭器、先刃式掻器、抉入削器、上ヶ屋型彫器等が欠落しており、当概期の石器群としては断片的な内容と理解できる。後者は、出土層位から同編年第3期の石器群の一部と思われる。

### 引用・参考文献

- 愛鷹ローム団研 1969 「愛鷹山麓のローム層」『第四紀研究』第8巻第1号  
小野真一他 1971 「上長窪遺跡群」長泉町教育委員会  
瀬川裕市郎 1986 「縄文時代の愛鷹山麓」『沼津市博物館紀要』10 沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館  
佐原 芳郎 1995 「第2期・第3期の石器群」『愛鷹・箱根山旧石器時代編年』静岡県考古学会シンポジウムIX  
前島 秀彦 1995 「第4期・第5期の石器群」『愛鷹・箱根山旧石器時代編年』静岡県考古学会シンポジウムIX  
石器文化研究会編 1996 『シンポジウムAT以降のナイフ形石器文化』石器文化研究5  
望月由佳子 2003 「大岡元長窪線関連遺跡1」静岡県埋蔵文化財調査研究所

### 謝辞

今回整理作業にあたって小崎晋氏（沼津市教育委員会）に助言・協力をいただいた。厚く御礼申し上げます。

表6 石器観察表(編文)

図版No.	調査区	器種	層位	登録番号	石材	総長mm	柄長mm	厚さmm	重量g
1	5-9区	石鏃	FB	57	ガラス質無色安山岩	30.2	22.2	3.5	1.42
2	5-9区	石鏃	KU	33	黒曜石	18.9	18.1	3.2	0.56
3	5-9区	石鏃	Fb	39	黒曜石	14.8	10.6	2.4	0.31
4	5-9区	石鏃	FB	108	ホルンフェルス	100.7	55.8	27.2	188.9
5	5-9区	打製石斧	KU	3	黒石安山岩	73.1	54.5	12.9	86.45
6	5-9区	磨石	FB	77	安山岩(珪島)	84.7	57.2	36.3	223.93
7	5-9区	磨石	FB	103	安山岩(珪島)	108.6	75.5	37.2	506.74
16	2-4区	石鏃	FB	110	ホルンフェルス	24.9	19.1	5.8	1.37
17	2-4区	磨石	FB	135	黒曜石	41.4	39.6	13.2	1.77
18	2-4区	磨石	KU	111	安山岩(珪島)	198.2	92.9	74.6	1829.5
21	3-7区	石鏃	FB	169	黒曜石	36.1	20.4	4.8	1.74
22	3-7区	石鏃	FB	193	安山岩(珪島)	236.1	229.4	69.3	7840

表7 石器観察表(旧石器)

図版No.	調査区	器種	層位	登録番号	石材	総長mm	柄長mm	厚さmm	重量g
8	5-9区	ナイフ形石鏃	FB	55	黒曜石	34.7	18.9	9.8	6.05
9	5-9区	ナイフ形石鏃	YL	92	黒曜石	26.4	21.8	6.9	4.57
10	5-9区	ナイフ形石鏃	FB	30	黒曜石	29.9	17.1	3.2	3.05
11	5-9区	ナイフ形石鏃	YL	90	ホルンフェルス	32.2	16.9	7	3.59
12	5-9区	ナイフ形石鏃	YL	85	黒曜石	19.2	11.5	3.7	0.69
13	5-9区	ナイフ形石鏃	KU	5	黒曜石	26.5	15.8	5.1	2.45
14	5-9区	ナイフ形石鏃	ノッテ	100	黒曜石	31.1	23.6	4.8	3.02
15	5-9区	使用痕跡片	YL	95	黒曜石	23.9	11.7	2.9	0.57
19	2-4区	ナイフ形石鏃	YL	125	黒曜石	25.9	15.2	3.9	1.61
20	2-4区	磨石	FB	124	黒曜石	20.1	17.9	6.4	1.89
23	1-5区	使用痕跡片	BB1	144	黒曜石	24.5	37.8	6.9	6.9
24	1-5区	石刃	BB1	146	ホルンフェルス	66.1	34.5	8.9	22.75

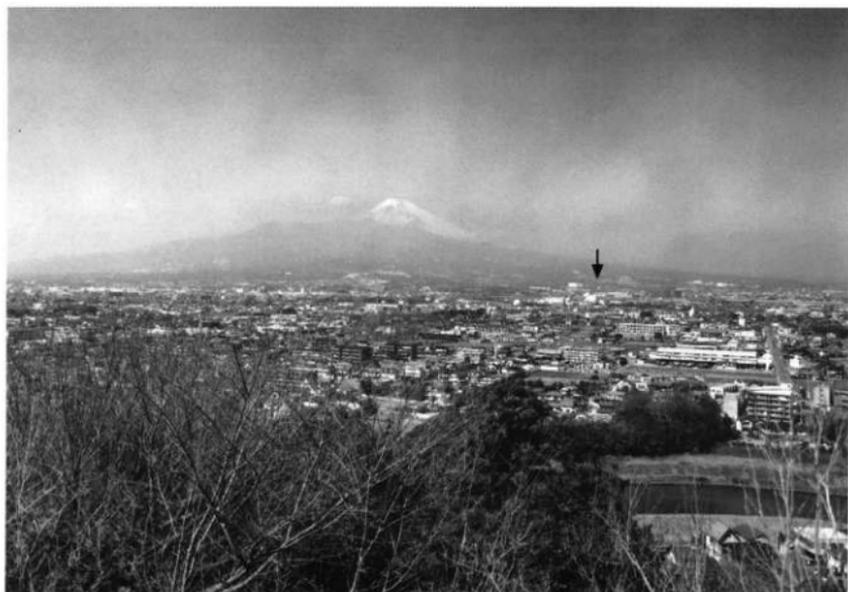
表8 陳計測表-1

遺物番号	調査区	層位	石材	最大幅(cm)	長さ(cm)	重量(g)	溶化	接合状況・備考
1	5-9	FB	An(Py)	9.1	6.0	140	D	
2	5-9	KU	An(Py)	3.4	3.0	15	C	
4	5-9	KU	An(Py)	17.5	15.0	1900	D	
12	5-9	KU	An(Py)	2.1	1.8	3	D	
13	5-9	KU	MSS	2.5	1.4	8	A	線線(内線)
14	5-9	KU	An(Py)	3.9	3.6	65	C	
15	5-9	FB	An(Py)	17.5	13.0	1263	D	
21	5-9	KU	An(Py)	5.7	3.5	28	D	線線(内線)
22	5-9	KU	Rhy	2.9	2.6	10	A	
23	5-9	KU	An(Py)	3.3	2.6	15	D	72と接合
27	5-9	AN	Vbe	5.6	2.7	22	E	
29	5-9	YL	An(Py)	3.8	2.3	10	D	火山礫(自然遺物)
35	5-9	KU	An(Py)	11.0	8.9	260	D	
37	5-9	FB	An(Py)	6.2	3.0	45	C	
65	5-9	FB	An(Py)	15.0	11.5	350	D	
66	5-9	FB	An(Py)	14.0	8.5	590	D	
67	5-9	FB	An(Py)	10.5	10.0	550	D	23と接合
68	5-9	FB	Vbe	15.2	8.0	390	D	
69	5-9	FB	VAn	7.1	4.7	50	D	
70	5-9	FB	An(Py)	12.6	10.0	400	D	
71	5-9	FB	An(Py)	6.5	5.4	60	D	72と接合
72	5-9	FB	An(Py)	9.5	7.0	130	D	71と接合
73	5-9	FB	MSS	4.6	2.8	5	B	
75	5-9	FB	MSS	4.8	3.9	10	B	
76	5-9	FB	MSS	4.7	4.0	20	B	
80	5-9	FB	An(Py)	10.0	9.2	550	C	
102	5-9	FB	An(Py)	11.5	11.9	1120	D	
104	5-9	FB	VAn	10.2	9.2	170	D	
105	5-9	FB	An(Py)	3.6	1.7	10	D	
112	2-4	KU	An(Py)	5.3	4.2	70	D	
113	2-4	KU	An(Py)	14.2	13.9	940	D	
115	2-4	FB	An(Py)	5.5	5.0	120	C	
116	2-4	FB	An(Py)	9.2	7.4	320	C	
118	2-4	FB	An(Py)	6.4	5.9	70	D	
119	2-4	FB	VBe	7.6	6.0	260	C	
120	2-4	FB	An(Py)	6.5	4.8	40	D	
122	5-9	BB0	An(Py)	4.6	4.3	35	C	
123	2-4	FB	VAn	5.3	4.8	100	C	
126	2-4	KU	An(Py)	7.1	6.1	220	D	
127	2-4	KU	An(Py)	15.5	12.5	325	D	
128	2-4	KU	An(Py)	4.4	2.5	10	D	
129	2-4	FB	VAn	8.9	5.9	160	D	
130	2-4	FB	An(Py)	4.4	4.4	65	C	
131	2-4	FB	An(Py)	14.1	13.0	710	E	

表8 確計測表-1

建物番号	調査区	扉位	石材	最大幅(cm)	長さ(cm)	重量(g)	劣化	接合状況・備考
132	2-4	FB	An(Py)	10.0	5.1	335	D	
133	2-4	FB	An(Py)	5.2	2.8	30	D	142と接合
134	2-4	ZN	Ba	17.1	12.9	2030	C	
137	2-4	FB	An(Py)	4.8	3.5	30	C	
138	2-4	FB	An(Py)	12.2	9.8	430	D	
140	1-5	FB	An(Py)	8.0	6.6	160	C	
141	2-4	FB	An(Py)	6.0	5.3	50	D	145と接合
142	2-4	FB	An(Py)	11.9	9.6	480	D	133と接合
143	2-4	ZN	An(Py)	12.8	11.5	570	D	
145	2-4	FB	An(Py)	5.4	4.5	20	D	141と接合
147	2-4	KU	An(Py)	6.9	3.4	30	E	
148	2-4	KU	An(Py)	3.0	2.2	10	D	
151	3-7	FB	An(Py)	9.5	7.8	710	D	
159	3-7	FB	An(Py)	7.8	7.4	130	D	
160	3-7	FB	An(Py)	9.6	8.5	300	D	
161	3-7	FB	An(Py)	4.2	3.8	20	D	
162	3-7	FB	An(Py)	12.1	7.2	480	D	
163	3-7	YL	An(Py)	11.7	4.1	140	E	
164	3-7	KU	An(Py)	6.1	4.2	50	D	
166	3-7	FB	An(Py)	11.1	6.8	200	D	
167	3-7	ZN	VBa	7.0	6.2	310	C	
168	3-7	ZN	An(Py)	15.9	8.8	800	D	
170	3-7	KU	An(Py)	16.6	10.8	910	D	
171	3-7	KU	An(Py)	8.6	6.5	260	D	
172	3-7	KU	An(Py)	18.4	15.6	1550	D	
173	3-7	KU	An(Py)	9.2	8.8	430	D	
174	3-7	KU	Ba	9.6	5.5	240	D	
175	3-7	KU	An(Py)	10.1	5.3	250	C	
176	3-7	KU	An(Py)	4.7	3.7	50	A	
177	3-7	KU	An(Py)	14.3	10.1	570	E	
180	3-7	KU	An(Py)	10.0	5.6	250	D	
181	3-7	KU	An(Py)	4.8	3.4	30	D	
185	3-7	KU	VAn	14.8	8.0	650	D	
190	3-7	FB	An(Py)	5.8	3.9	30	D	
196	3-7	クロ	An(Py)	15.9	8.1	800	D	SX01
199	3-7	クロ	Da	4.6	4.5	60	C	SX01
200	3-7	クロ	Da	5.0	4.7	60	C	SX01
201	3-7	クロ	Da	9.1	7.0	260	D	SX01
202	3-7	クロ	An(Py)	5.5	4.6	160	A	SX01
203	3-7	クロ	Da	4.7	4.0	45	C	SX01
206	3-7	クロ	Da	4.9	4.1	60	A	SX01
207	3-7	クロ	VAn	5.6	4.6	75	A	SX01
208	3-7	クロ	Da	6.0	4.5	65	C	SX01
209	3-7	クロ	Da	7.5	4.7	140	D	SX01
210	3-7	クロ	Da	5.4	3.1	50	C	SX01
211	3-7	クロ	Da	6.1	4.1	60	C	SX01
212	3-7	クロ	Da	4.1	4.0	40	C	SX01
213	3-7	クロ	VBa	4.3	3.2	20	A	
214	3-7	クロ	An(Py)	5.6	5.4	60	C	
215	3-7	クロ	Da	5.6	4.9	70	A	
216	3-7	クロ	Da	5.7	4.0	80	A	
218	3-7	KU	An(Py)	5.5	5.1	110	C	
219	3-7	KU	An(Py)	3.7	3.3	30	C	
220	3-7	KU	An(Py)	3.8	3.6	40	C	
221	3-7	KU	VAn	5.4	4.2	30	C	
222	3-7	KU	An(Py)	5.2	2.7	30	D	223と接合
223	3-7	KU	An(Py)	15.7	13.0	1050	D	222と接合
224	3-7	KU	An(Py)	3.8	6.1	410	D	
225	3-7	KU	An(Py)	7.8	5.9	240	D	
226	3-7	KU	An(Py)	9.1	6.2	220	D	
227	3-7	KU	VBa	4.5	2.6	30	A	
228	3-7	KU	An(Py)	5.1	4.5	50	D	
229	3-7	KU	M/SS	5.0	2.0	25	C	系統(円種)
230	3-7	FB	Ba	9.0	5.6	160	D	
231	3-7	FB	An(Py)	4.6	3.5	10	D	
232	3-7	FB	An(Py)	5.4	3.7	60	D	
233	3-7	FB	An(Py)	5.3	4.3	60	D	
234	3-7	FB	An(Py)	7.4	5.5	200	C	
235	3-7	FB	An(Py)	4.9	3.5	40	C	
236	3-7	KU	An(Py)	8.5	6.4	290	C	
237	3-7	KU	An(Py)	6.5	5.0	100	C	
238	3-7	KU	VBa	4.0	2.8	30	C	

# 写 真 图 版



1. 遠景(香貫山より遠跡を望む)



2. 作業風景



1. 5-9区 完掘状況(西より)



2. 5-9区 テストピット2北壁土層断面



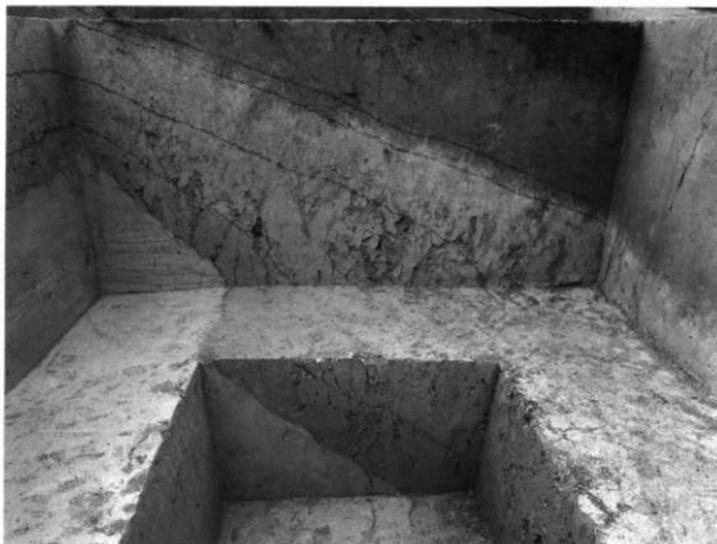
1. 5-9区 FB層調査遺物出土状況(北東より)



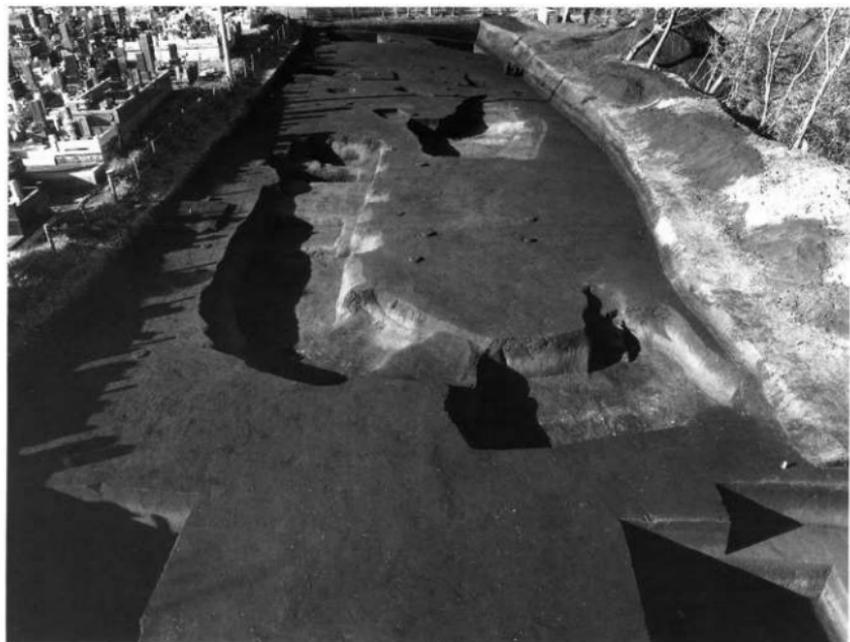
2. 5-9区 YL層遺物出土状況(北東より)



1. 2-4区 発掘状況(北より)



2. 2-4区 テストピット10北壁土層断面



1. 3-7区 発掘状況(南より)



2. 3-7区 テストピット23北壁土層断面



1. 3-7区 FB層遺物出土状況(西より)



2. 3-7区 土坑完掘状況



1. 3-6区 完掘状況(北より)



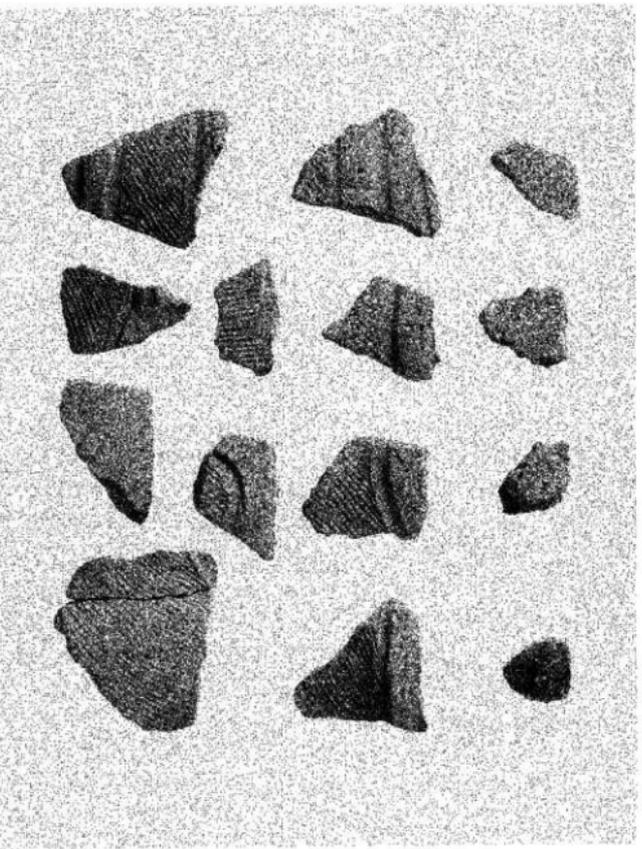
2. 3-6区 テストビット19東壁土層断面



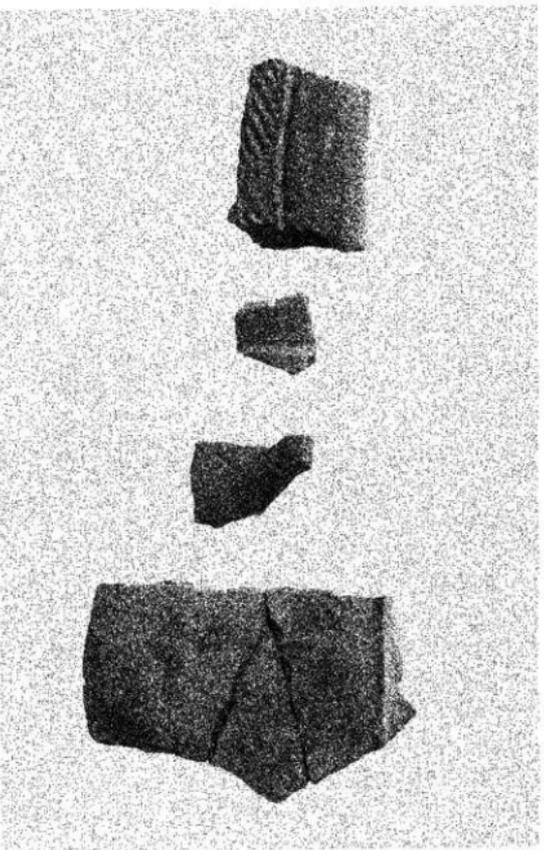
1. 1-5区 完掘状況(南より)



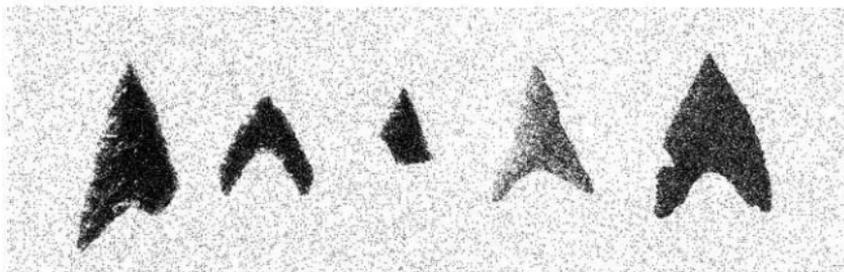
2. 1-5区 テストピット15北壁土層断面



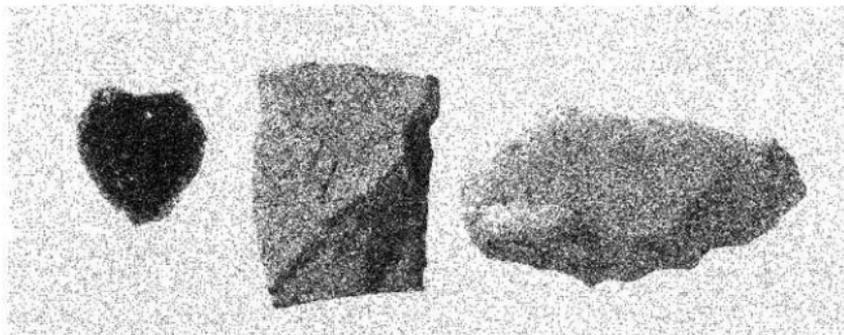
1. 5—9区 出土绳文土器



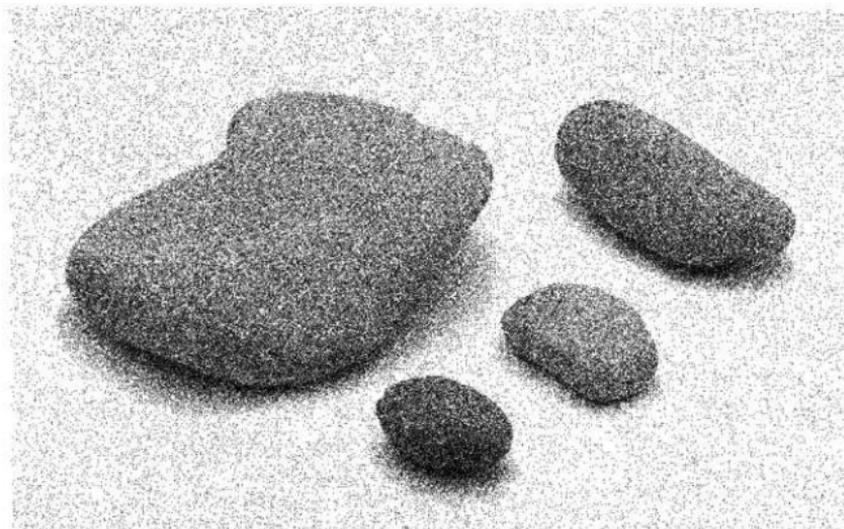
2. 3—7区 出土绳文土器



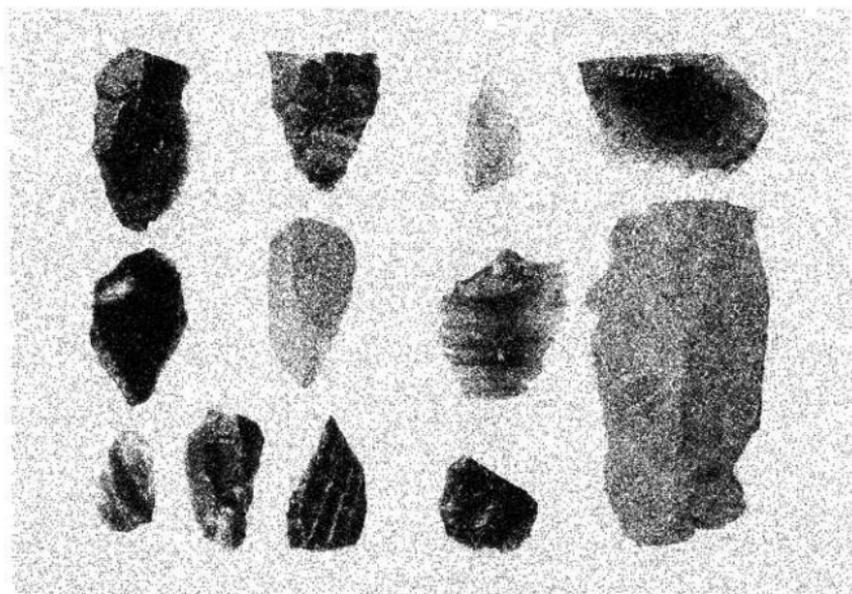
1. 縄文時代石鏃



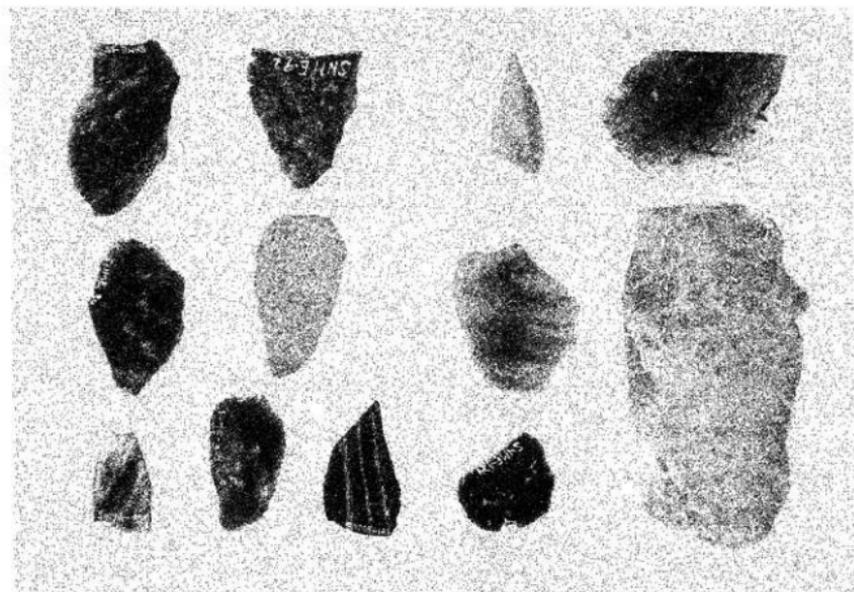
2. 縄文時代石器



3. 縄文時代礫石器



1. 旧石器時代の石器(表)



2. 旧石器時代の石器(裏)

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	おおおかもとながくぼせんかんれんいせき							
書名	大岡元長塚線関連遺跡 II							
副書名	平成16年度(主)大岡元長塚線第二東名アクセス道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書							
シリーズ番号	第162集							
編著者名	原田利志美 下島健弘							
編集機関	静岡県埋蔵文化財調査研究所							
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市谷田23-20							
発行年月日	2005年3月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかのね 中塚遺跡	静岡県駿東郡 長泉町元長塚 字中塚693他	22342		35度 08分 58秒	138度 52分 19秒	20040701 ～ 20050331	4015	(主)大岡元 長塚線第二 東名アクセ ス道路整備 工事に伴う 埋蔵文化財 調査
ほつの上 桜畑上遺跡	静岡県駿東郡 長泉町上長塚 字上野438-1他	22342		35度 09分 02秒	138度 52分 26秒	20040701 ～ 20050331	57	
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
中塚遺跡	散布地	後期 旧石器時代	石器ブロッ ク2	ナイフ形石器7、使用痕剥片1、ノッチ 1、挿器1				
		縄文時代 早期～後期		縄文土器(掛糸文3、木島1、加曾利E 12)打製石斧1、石鏃5、石核1、削器 1、石皿1、磨石2、磨石・敲石1				
	その他	中世	土坑1					
桜畑上遺跡	散布地	後期 旧石器時代		使用痕剥片1、石刃1				
備考	使用測地系 世界測地系(改正後)を使用							

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第162集

## 大岡元長寝線関連遺跡 II

平成16年度(主)大岡元長寝線第二東名アクセス道路  
整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日 平成17年3月25日

編集発行 財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所  
〒422-8002 静岡県静岡市谷田23-20  
TEL 054-262-4261(内)

印刷所 ヨシダ印刷株式会社  
〒410-0049 静岡県沼津市江原町15番8号  
TEL 055-921-5421

